表丹沢魅力づくり構想（案）

「本物の魅力」が見つかる表丹沢

令和２年（２０２０年）７月

神奈川県秦野市

目次

■第１章　はじめに ____ 1

1　表丹沢魅力づくり構想とは ____ 1
2　対象エリア ____ 3
3　位置付けと構想期間 ____ 4

■第２章　表丹沢の特徴 ____ 5

1　表丹沢の資源 ____ 5
2　表丹沢を取り巻く状況 ____ 15

■第３章　表丹沢が目指す姿 ____ 24

魅力づくりビジョン ____ 24

■第４章　魅力づくり方針 ____ 27

1　５つの基本方針 ____ 28
2　エリア別方向性 ____ 48

■第５章　構想の推進に向けて ____ 59

1　推進体制 ____ 59
2　推進プロセス ____ 61

第１章　はじめに

１　表丹沢魅力づくり構想とは

信仰の山から関東屈指の山岳景勝地へ

大倉尾根 昭和 43 年（1968 年）

表丹沢を含む丹沢山地は、山岳信仰に生きた修験者（山伏）が訪れた歴史を持ち、今でも「行者」「大日」など修験者を偲ばせる山名が残っています。その先駆を務めたのは、奈良時代の天正勝宝７年（７５５年）、東大寺初代別当の良弁僧正が丹沢山地に入り、大山頂上に大山寺を開基して信仰の霊場を開いたとされています。奈良、平安から江戸時代にかけて、徐々に修験道が流行していき、丹沢山地全域は、関東地方における修験の一大道場となり、山岳信仰の霊域として、多くの修験者の殿堂が建設されました。戦後には、観光や地域経済の発展から、丹沢を活用しようという動きが高まり、登山道や山小屋が整備されました。そして、昭和３０年（１９５５年）の第１０回神奈川国体の開催、昭和４０年（１９６５年）の「丹沢大山国定公園」の指定等を経て、丹沢の名は全国に知れ渡り、１年を通して全国から多くの登山者やハイカーが訪れるようになりました。現在でも都心からのアクセスが良い関東近郊の登山スポットとして名高い地域です。

日本三大銘葉を生んだ葉たばこ耕作と里地里山

たばこ畑

また、麓の里地里山は、江戸時代初期から始まったといわれる葉たばこ耕作を中心とした農業や、雑木林を利用した薪や炭等の燃料作りなど、市民の暮らしや生業を支える場所として重要な役割を果たしていました。特に、耕作者の努力と工夫により生産技術が確立された秦野産の葉たばこは、薩摩（鹿児島県）、水府（茨城県）に並び「日本三大銘葉」の一つに数えられ、わが国のたばこ産業発展の礎となりました。しかし、社会様式の変化や３００年余続いた葉たばこ耕作の終焉等により、里地里山は徐々に利用されなくなり、一部ではシカやイノシシなど野生鳥獣のすみかとなっています。

秦野中井インターチェンジの開設とまちの発展

東名高速道路
秦野中井インターチェンジ完成の様子

一方、市街地では、国の高度経済成長政策とあいまって急激な都市化が進み、昭和５６年（１９８１年）の東名高速道路秦野中井インターチェンジの開設に伴い、東京・横浜への所要時間が短縮され、産業立地が進むとともに、小田急線により都心へ１時間で行けるアクセスの良さからベッドタウンとしても発展してきました。

新東名高速道路の開通と新たな期待

このように都市と自然が融合し、発展を遂げてきましたが、近年の全国的な少子高齢化の進行・人口減少により、本市においても生産年齢人口の減少やそれに伴う地域経済の縮小が懸念されています。

こうした中、新たに全線開通が予定される新東名高速道路により、首都圏や中部・関西方面など広域からの交通利便性が飛躍的に向上し、これを契機とした産業振興や観光振興等の地域活性化が大いに期待されています。

新東名高速道路

はだの丹沢クライミングパーク

本市域の新東名高速道路は、本市を横断し、表丹沢の麓にはサービスエリアと２つのインターチェンジが新たに設置され、注目される機会も確実に増えていきます。

また、表丹沢とその麓には、農林業、観光、歴史、文化、スポーツなど様々な分野の資源があります。

表丹沢の魅力を生かして

こうした表丹沢一帯にある魅力を最大限に生かすため、**様々な分野の資源を磨き**、**つなげ**、そして**新たに触れる機会を増やす**ことで、**市民が表丹沢の魅力を再認識し、愛着や誇り（シビックプライド）を高める**とともに、表丹沢の本物の魅力を効果的な方法で発信し、**市外からも多くの方に、２度、３度と訪れていただくことにより、交流人口や関係人口の創出等を図る**ことで、地域活性化にもつながる**「表丹沢魅力づくり構想」**を策定します。

2　対象エリア

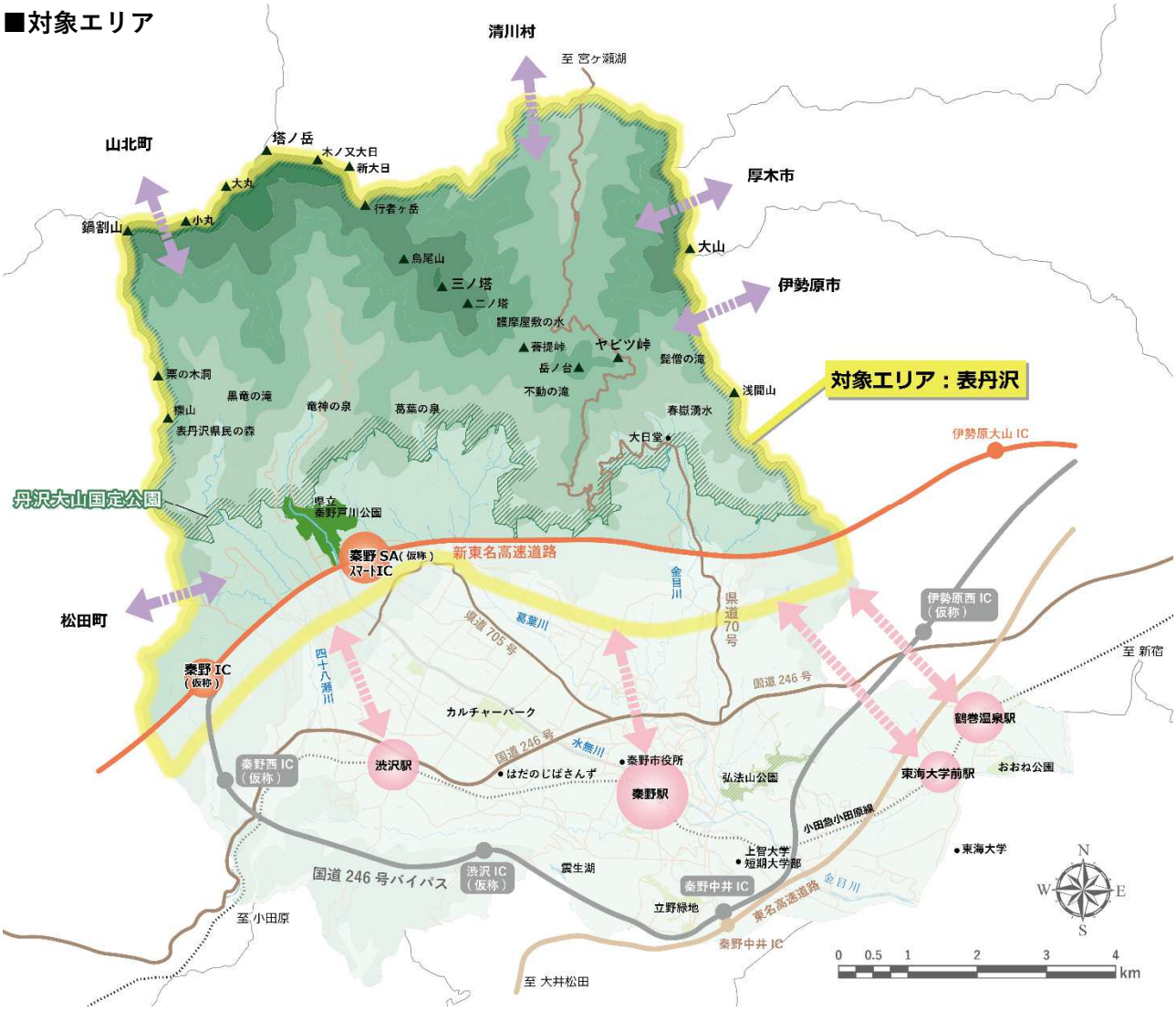
本構想では、本市中央を横断する新東名高速道路の周辺に広がる里地里山から北側に位置する丹沢山地一帯を中心とした本市域を「表丹沢」とします。

表丹沢の大部分は、自然公園法に基づき「丹沢大山国定公園」に指定されており、丹沢山塊を代表する「塔ノ岳」、「鍋割山」、「大山」、「三ノ塔」といった峰で構成されています。

また、本構想は表丹沢を対象エリアとしますが、本市の新たな玄関口となる新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ周辺、四季を通じて多くの登山者が訪れる表丹沢への玄関口である市内小田急線４駅を中心とした市街地及び丹沢の資源を共有する隣接市町村とも連携を図りながら推進していきます。

なお、平成２６年７月に策定した「秦野ＳＡスマートＩＣを活かした周辺土地利用構想」の「地域振興・ふれあい交流ゾーン」及び「農業生産ゾーン」で想定される導入機能については、更なる有効な土地利用を展開するために、対象エリア全体の中で取り組むこととします。

■対象エリア



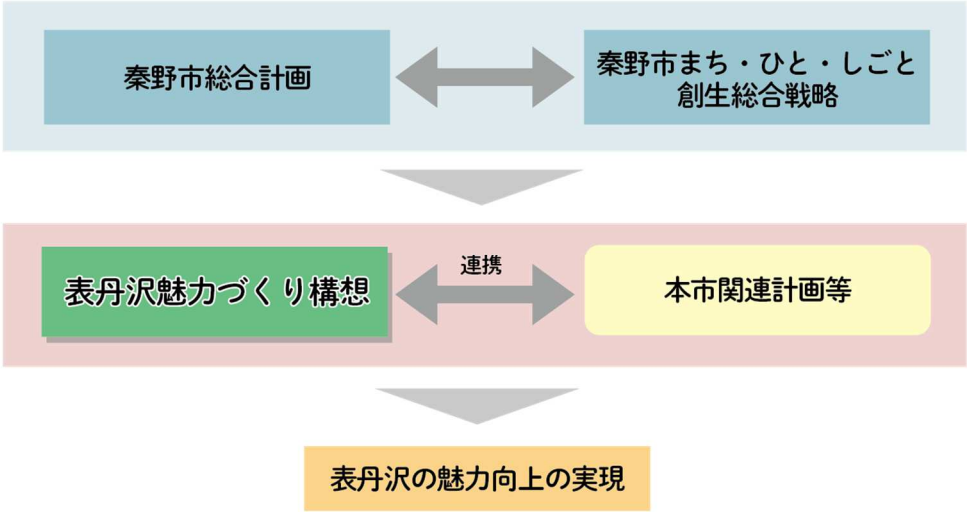
3　位置付けと構想期間

本構想は、「秦野市総合計画」、「秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を上位計画とし、他の関連計画等と連携し、整合性を図るものとします。

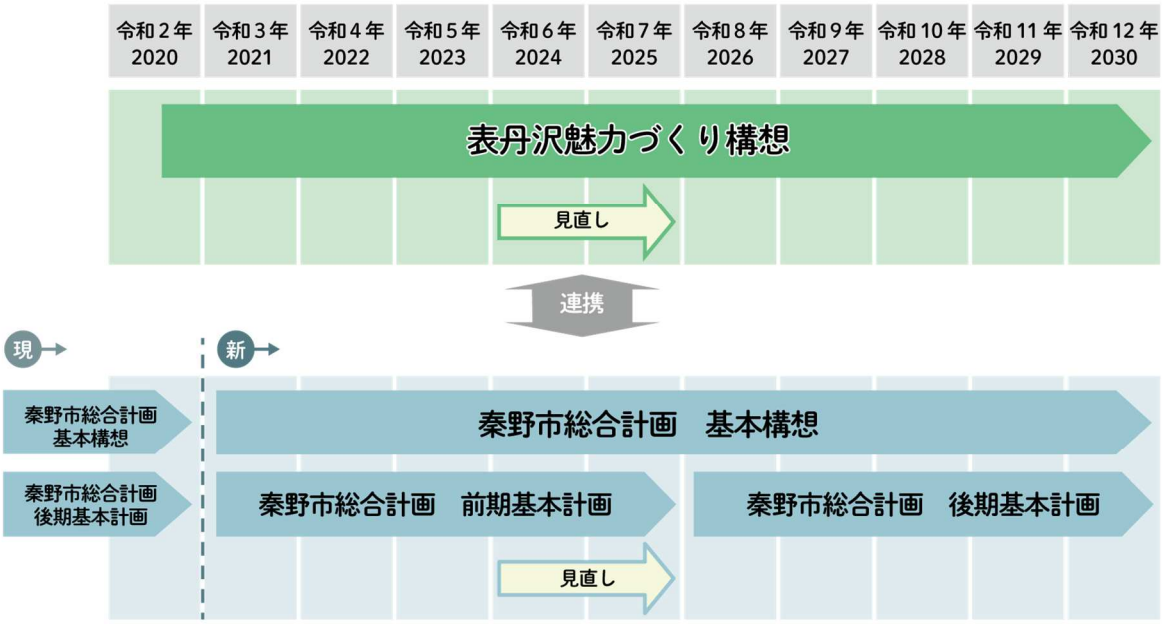
また、本構想期間は、令和１２年度（２０３０年度）までのおおむね１０年間とし、令和３年度（２０２１年度）から１２年度（２０３０年度）まで取り組む「秦野市総合計画基本構想」と連携を図りながら取り組んでいきます。

なお、その達成度を検証するとともに、社会潮流の変化を予測したうえで、新たな課題等に対して的確に対応していくため、「秦野市総合計画 基本計画」と同様に、おおむね５年後に見直します。

■構想の位置付け



■構想期間



第２章　表丹沢の特徴

１　表丹沢の資源

(1)　都心から近くにある本格的自然

ア　都心から１時間のアクセス

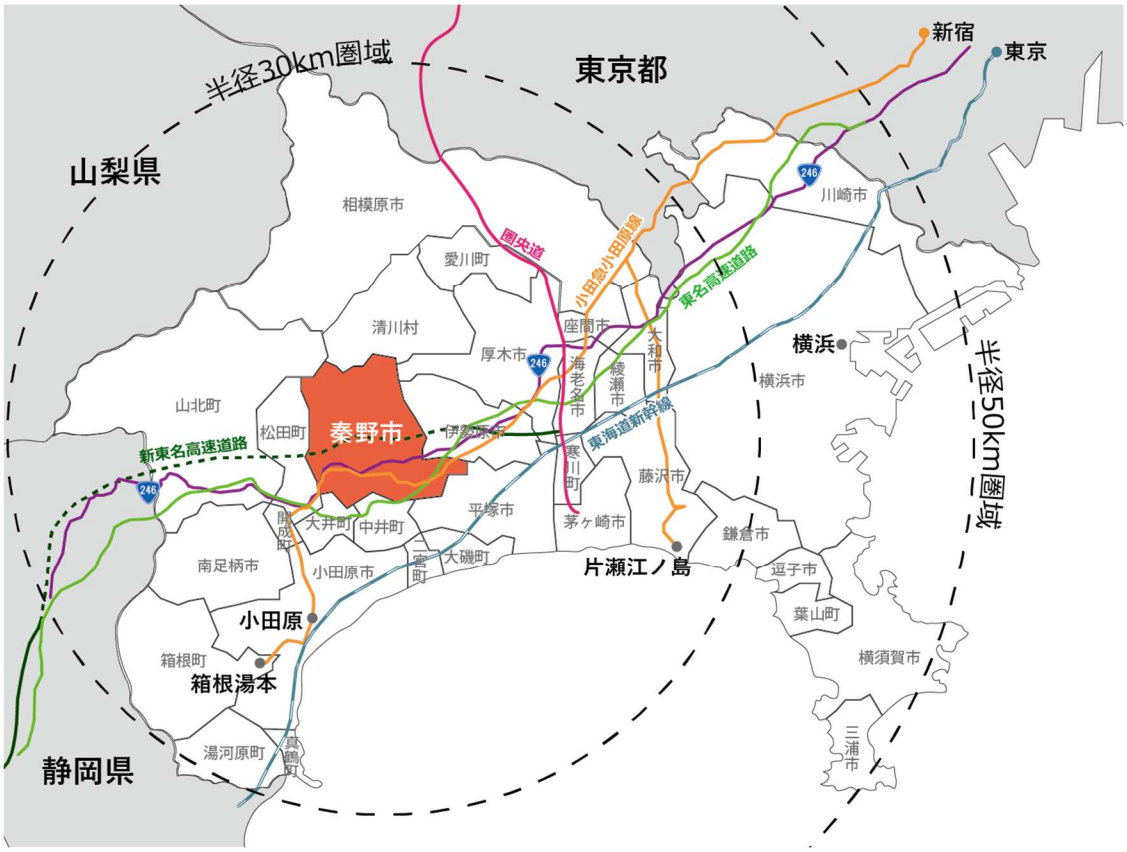
秦野の田園風景とロマンスカー

本市は神奈川県央の西部に位置し、市の中心部は東京駅からは約６０キロメートル、横浜駅から約３７キロメートルの距離にあり、**小田急小田原線「新宿駅」から約１時間**でアクセスが可能です。

また、市の南側には東名高速道路秦野中井ＩＣ、市の北側には令和３年度（２０２１年度）開通予定の新東名高速道路が整備中で、市内には秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ及び秦野ＩＣ（仮称）が新たに開設されます。

さらに、令和５年度（２０２３年度）には、新東名高速道路の全線開通が予定されており、東名高速道路や圏央道（さがみ縦貫道路）とのネットワークが形成され、首都圏や中部、関西方面などからの交通利便性が飛躍的に向上することから、産業振興や観光振興等の地域活性化が期待されます。

■秦野市の位置



イ　県内唯一の盆地のまち

鉄道や道路による都心からのアクセスに優れた立地でありながら、市の北側にはいわゆる「神奈川の屋根」丹沢山地がひかえ、南側には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走り、中央は**県内で唯一の典型的な盆地**が形成される、自然と都市が融合した地域です。

秦野盆地

ウ　丹沢が誇る豊かな自然

本市は、丹沢山地をはじめ弘法山や渋沢丘陵等の森林が広がり、森林面積は、５，４５０ha と市総面積の５３％を占めています。

塔ノ岳、鍋割山等の標高８００m以上の奥山林には、**太平洋側では貴重ともいえるブナ林が広がっており、地域固有のサガミジョウロウホトトギス**※1 **やヤシャイノデ**※2 **等の植物が生息**しています。

サガミジョウロウホトトギス

また、塔ノ岳からの水無川、春嶽山からの金目川など、市内を流れる河川の多くは、丹沢山地の稜線の間から発しており、河川敷や湧水スポット等の親水空間は、市民にとって身近な存在となっています。

エ　自然に恵まれたイメージが大きい秦野市

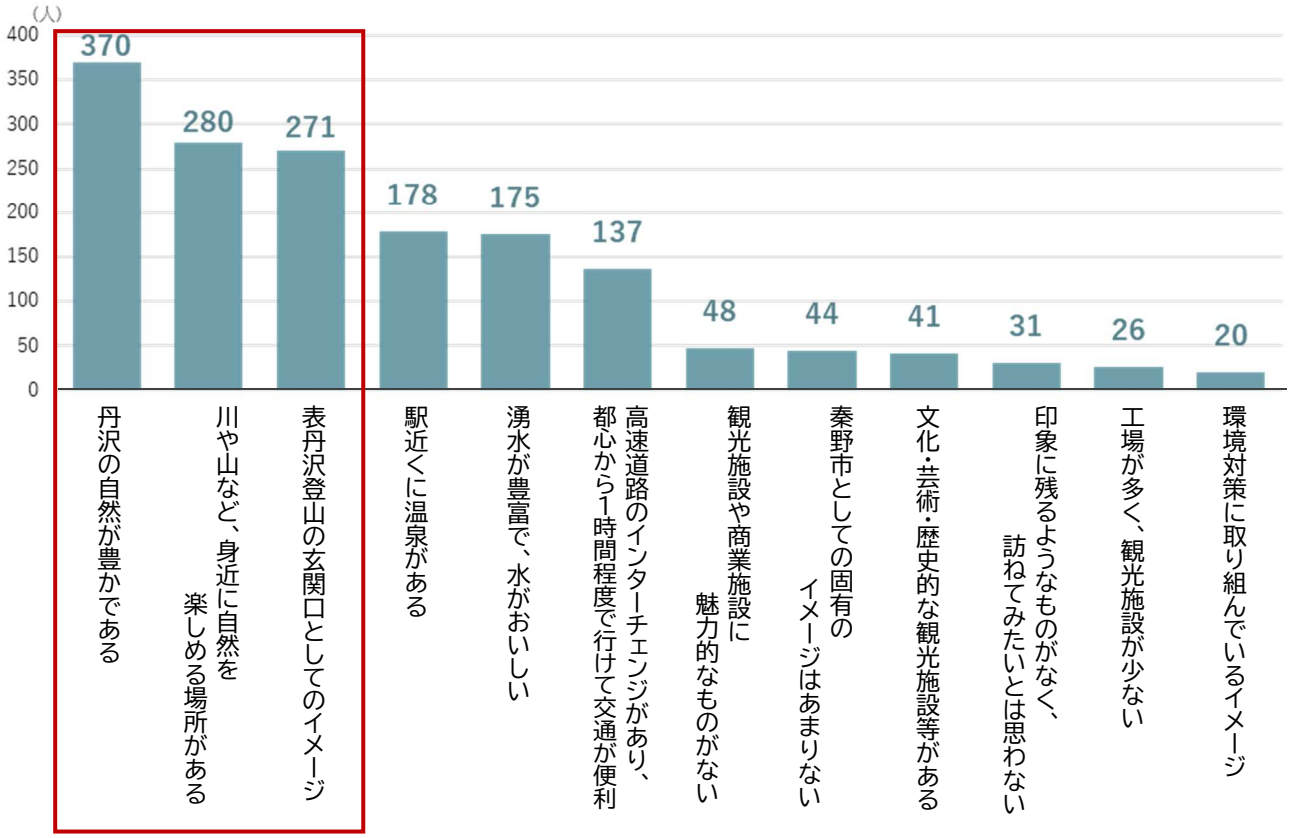
本市は、水とみどりに恵まれており、これらの自然は、市民にとって暮らしよい環境を実現する上で重要な要素の一つとなっています。

市外在住者も、本市に対して**自然に恵まれた環境であるというイメージが大きく**、秦野にとって丹沢は貴重な財産といえます。

水無川上流

※1　サガミジョウロウホトトギス：全国で丹沢山地にのみ分布する神奈川県の固有種。
※2　ヤシャイノデ：全国で長野県下伊那郡上村と山梨県南都留郡道志村、神奈川県足柄上郡山北町の３箇所だけに分布するシダ植物。

■秦野市のイメージ



（n=442 人、複数回答）

出典：秦野市 「秦野市観光振興 WEB アンケート調査」 令和元年（2019 年）

(2) 多様な山岳・里山アクティビティ※3 フィールド

ア 関東近郊の登山スポットとして名高い丹沢

丹沢山地のなかでも、表丹沢には、ヤビツ峠から塔ノ岳へ表尾根の展望を満喫できる通称「表尾根縦走コース」や大倉から表丹沢の最高峰「塔ノ岳」山頂を一直線に目指す通称「バカ尾根」と呼ばれる大倉尾根を登る「塔ノ岳コース」など、**本格的な登山道が多くあります。**

代表的な登山口である「大倉」には小田急線渋沢駅、「ヤビツ峠」には小田急線秦野駅からバスが出ており、**登山口へのアクセスが比較的優れている**ことから、関東近郊の登山スポットとして毎年、東京・横浜等の首都圏から多くの登山客が訪れます。

さらに近年は、登山だけではなくトレイルランニングや沢登りを楽しむ人も増えています。

三ノ塔

※3 アクティビティ：「活動」や「活気」という意味の英単語。特に、観光地等での様々な遊びや体験についていう。

イ　活性化が期待されるクライミング拠点

県立秦野戸川公園内の**「はだの丹沢クライミングパーク」及び「県立山岳スポーツセンター」**には、クライミング競技の３施設（ボルダリング、リード、スピード）があり、国内有数の拠点として、**体験イベントの開催や、国内大会の招致、アスリートの練習場としての活用**等により、市民の健康増進のほか、クライミングの幅広い活性化が期待されています。

はだの丹沢クライミングパーク
及び県立山岳スポーツセンター

ウ　ヒルクライム※4のメッカとして有名なヤビツ峠

近年、市街地からヤビツ峠へつながる**県道７０号（秦野清川線）は、ヒルクライムのメッカ**として多くのサイクリストが訪れています。

また、平成３０年（２０１８年）からは**県道７０号や桜沢林道等をコースとしたグランフォンド※5やヒルクライムの大会**が行われるなど、表丹沢でのサイクリング文化が醸成されつつあります。

ヤビツ峠

(3)　暮らしに身近な水と農

ア　地形的特徴が生み出す湧水群

地下水盆という地形的特徴から、秦野盆地の地下には地下水が豊富に蓄えられており、これらの地下水は盆地内の各所で湧き出し、これが**秦野盆地湧水群として名水百選**に選ばれています。

これら湧水は市民の生活を支えるインフラとしてはもちろん、これら湧水スポットを巡るハイキングツアーが組まれるなど観光資源としても多くの人が訪れています。

葛葉の泉

※4　ヒルクライム：峠や山道の決められたコースを、ロードバイクを中心としたスポーツバイクで登る競技もしくは乗り方のこと。
※5　グランフォンド：山岳コースをメインとした長距離を、景色を楽しみながら自転車で走る競技イベントのこと。

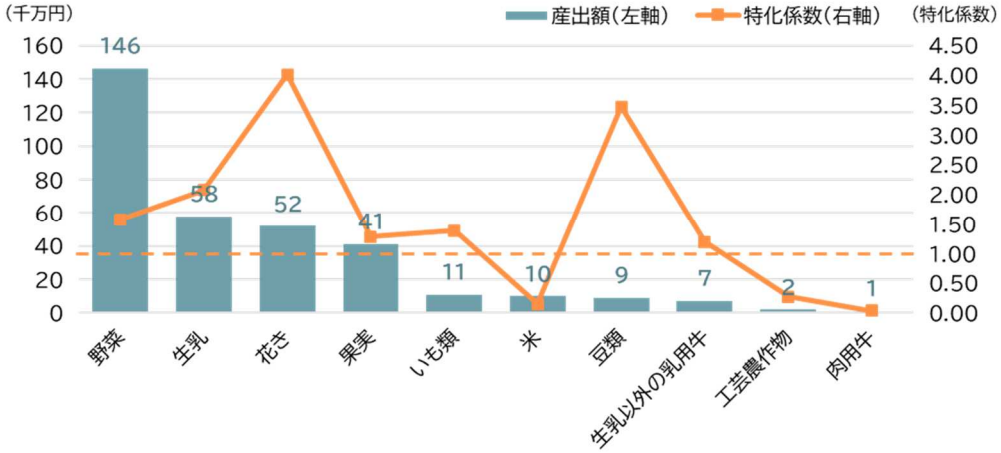
イ　都心からのアクセスの良さを生かした多品種栽培が特徴の農業

はだのじばさんず

本市の農業は、都心からのアクセスの良さを生かし、野菜、果樹、花き及び畜産など多様な農産物を生産しています。落花生やカーネーションなど県内有数の産地となっている品目もあります。

市内には、１８の直売所があり、特に**「はだのじばさんず」は、県内でも有数の売場面積と売上げを誇る直売所**であり、市民の生活の支えとなっています。

■品種別農業産出額



出典： 農林水産省 「市町村別農業産出額（推計）」 平成 29 年（2017 年）

ウ　葉たばこ耕作の裏作が生んだ名産品

秦野の落花生

秦野の落花生は、葉たばこ耕作の輪作として明治から昭和にかけて盛んに栽培され、令和の大嘗祭※6（だいじょうさい）では神奈川県下特産品５品の内の一つとして秦野の落花生が納められました。

また、**そばも葉たばこ耕作の裏作として栽培されていた歴史**を持ち、良質な水と厳選された材料を使って作られる秦野名産品の一つです。

市内には多くのそば屋が点在しているほか、**そば打ち体験**等も行われています。

秦野のそば

※6　大嘗祭：皇室行事の一つ。天皇がご即位の後、大嘗宮の悠紀殿・主基殿において初めて新穀を皇祖・天神地祇に供えられ、自らも召し上がり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穣などを感謝し祈念される儀式。

エ　季節により様々な掘り取り等が体験できる観光農園

本市は、盆地という地形的特性から露地野菜や果物が栽培されており、観光農園では、いちご、ブルーベリー、落花生、さつまいもなど、**季節により様々な収穫体験**が楽しめます。

また、市とＪＡはだのの共同事業である「**農園ハイク**」など、自然をハイキングしながら収穫体験ができるイベント等も行われています。

農園ハイク

(4)　様々な団体・個人によるイベント等の実施

ア　里山ボランティア団体による多様な里山活動

市内には、表丹沢をフィールドに活動する里山ボランティア団体が多くあり、里山の下草刈り等の里山保全、田植えや掘り取り等の農業体験、里地里山を生かしたイベントなど、**団体により特色の異なる活動を通じ、秦野の魅力を発信**しています。

各団体が開催するイベントには、市民だけでなく、都心部に暮らす高齢者や若いファミリー世帯も参加するなど、**地域住民と来訪者の交流**も生まれています。

里山での田植え

イ　観光ボランティアによるハイキング

秦野市観光協会では、観光ボランティアを募集しており、**現在４０人以上の観光ボランティアが登録**されています。研修会等を受けた観光ボランティアは、ハイキングの企画・実施や依頼ガイドを行っており、**年間２０件以上のハイキングが開催**され、市内外から各回４０人前後の方が参加しています。

観光ボランティアによるハイキングツアー

ウ　表丹沢を舞台にした森林セラピー※7体験

本市は、**市全域が「森林セラピー基地」**及び**市内５つのコースが「セラピーロード」**として認定されています。

「森林セラピーガイド」の資格を持った地域住民等が、森林セラピーのイベントを開催し、ハンモックや森林ヨガ等のセラピー体験を提供しています。

森林セラピー

■森林セラピーロード

■表丹沢を活用した団体の活動例

活動例
蓑毛地区では、森林セラピーガイドの草花や史跡の話を聞きながら、ヨガ体験や森林ウォーキングを行う「てくてくウォーク in 蓑毛」等を実施している団体があります。
名古木地区では、棚田の復元・保全を行い、米やそば等の農作物を育て、収穫祭を行うほか、自然観察会やシンポジウム等を実施している団体があります。
菩提地区では、地場産の食材を使った食育の研究や里山カフェの運営のほか、地区の伝承文化や名産品についての知識や理解を深める「菩提五所神巡り」等を実施している団体があります。
四十八瀬川周辺では、河川及びホタル生息地の保全のための自然環境整備、枝打ちや間伐等の里山体験教室のほか、米作りや名水を活用したどぶろく作りなど幅広く活動している団体があります。

そのほかにも、雑木林等の保全・整備や里山を生かしたイベント等を実施している団体があります。

棚田の復元・保全

菩提五所神巡り

※7　森林セラピー：医学的エビデンスを基礎とした森林の快適性増進効果・癒し効果等を、健康維持・増進等に活かしていくという、新たな取組みの総称。NPO 法人森林セラピーソサエティの登録商標。

(5)　歴史・文化の点在

ア　丹沢修験道として栄えた歴史

丹沢山地は、奈良、平安から江戸時代にかけて**山岳信仰に生きた修験者たちが修行を行った歴史**を持ち、秦野にも多くの修験行所があったといわれています。本市域の表丹沢で最も標高の高い**塔ノ岳（尊仏山、標高１，４９１ｍ）は、山頂にあった大岩を「お塔」と呼び、雨乞いの神として祀られていました。**

このように丹沢山地には、今でも、「行者」「大日」など修験者たちを偲ばせる山名が残っています。

塔ノ岳山頂にある拘留孫仏※8の石祠

イ　先人の暮らしが垣間見られる遺跡の数々

本市には、２２０を超える遺跡がありますが、**新東名高速道路の建設に伴い、新たに市内十数箇所で大規模な発掘調査**が行われ、これまで調査が及ばなかった地域の遺跡内容が明らかになりました。

なかでも菩提横手遺跡で出土した大型中空土偶のほか、稲荷木遺跡では、県内有数の縄文時代後期の大規模集落跡が見つかるなど、当時の生活が垣間見られます。

また、蓑毛小林遺跡では、県内では例を見ないほどのナイフ形石器等、約５万点の旧石器時代の遺物が発掘されました。

市内には、地域の**歴史文化を学び、維持・保存する市民団体等も活動**しており、歴史文化遺産の活用による魅力の発信が期待されています。

稲荷木遺跡住居跡
提供：公益財団法人かながわ考古学財団

※8　拘留孫仏：塔ノ岳で尊崇される雨乞いの神。

ウ　源実朝[※9]公御首塚（みしるしづか）と波多野氏

源実朝は、建保７年（１２１９年）に甥の公暁によって鶴岡八幡宮で殺害されました。実朝の御首は、三浦義村の家臣であった武常晴によって**秦野の地に持ち込まれ、埋葬された**と伝えられています。

また、東・西田原周辺は、秦野を拠点に勢力を伸ばし、鎌倉幕府の御家人となった波多野氏に関わる伝承が残っており、田原ふるさと公園にある**東田原中丸遺跡からは、中世の武士の館を示す遺構、遺物が出土されています。**

源実朝公御首塚

現在でも毎年１１月２３日には、**御首塚及び田原ふるさと公園で「実朝まつり」が開催**され、実朝の供養や稚児行列等が行われています。

エ　大山詣りの御師（おし）[※10]の里として栄えた蓑毛地区

県道７０号が集落の中央を縦断する蓑毛地区は、かつて大山詣りへの人々を案内する御師（先導師）の家が立ち並び、南関東一帯に加え、伊豆、駿河方面からも参詣者が訪れていました。

現在では、かつての御師の家も少なくなりましたが、大山詣への道中には、**道標等が昔の姿で残っており、蓑毛から大山へ向かうハイキングコースとなっています。**

また、蓑毛地区には国登録有形文化財である大日堂、不動堂、地蔵堂、緑水庵等があるとともに、大日堂内には貴重な仏像である木造五智如来坐像が安置されており、**歴史・文化遺産が点在**しています。

蓑毛大日堂

※9　源実朝：鎌倉幕府３代将軍。母は北条政子。鶴岡八幡宮の境内で兄頼家の子、公暁に殺された。（１１９２－１２１９）
※10　御師：神社に属し、参詣者の案内や宿泊を業とした者。大山中心に信仰を布教し、民家は宿も兼ねていた。

■資源マップ

凡例

拠点施設
- 市管理施設
- 県管理施設

林道
- 市営林道
- 県営林道等
- 組合林道等
- 国有林林道等

都市計画公園
- 整備済み
- 事業中
- 未整備

- 丹沢大山国定公園
- ゴルフ場
- 里山系団体活動フィールド
- バス路線
- 森林セラピーロード
- 体験農園・観光農園
- 山岳アクティビティ施設
- 水資源スポット
- 市の施設（公民館等）
- 直売所
- 歴史的・文化的遺産
- 温浴施設
- 山小屋

※標高グラデーションは、200m間隔で色分け

2　表丹沢を取り巻く状況

(1)　社会潮流

ア　モノ消費時代からコト消費時代への転換

近年、消費の成熟化、都心回帰、インターネットの普及による価値基準の多様化等により、人々を取り巻く社会環境が大きく変わっています。特に消費行動については、モノやサービスを購入する「モノ消費」から、モノやサービスを使って**どのような経験・体験をするかという「コト消費」に変化**しています。

このように「何かを所有する」より「何かを体験する」ことを重視する人が多くなっている中で、地域の特色を生かした体験の提供が求められています。

参考：お金のかけ方

消費者庁による「消費者意識基本調査（平成２８年（２０１６年））」では、「お金をかけている」ことに対して、全ての世代で「食べること」の回答の割合が最も高く、そのほかにも「交際」、「旅行」、「スポーツ観戦・映画・コンサート鑑賞」といった「コト消費」関連の費用が上位にあげられます。

■現在お金をかけているもの（%）

順位	総数		10歳代後半		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
1	食べること	69.9	食べること	69.1	食べること	71.2	食べること	73.8	食べること	69.8	食べること	69.2	食べること	68.1	食べること	69.2
2	交際（飲食を含む）	29.0	ファッション	50.2	ファッション	52.1	ファッション	39.3	教育（子どもの教育）	47.7	交際（飲食を含む）	27.4	医療	36.1	医療	49.3
3	理美容 身だしなみ	28.2	スポーツ観戦 映画 コンサート鑑賞等	34.6	交際（飲食を含む）	45.2	教育（子どもの教育）	34.8	住まい	28.4	住まい	25.8	旅行	31.8	交際（飲食を含む）	27.8
4	医療	26.7	理美容 身だしなみ	33.9	理美容 身だしなみ	41.7	住まい	31.2	ファッション	26.5	通信（電話、インターネット等）	25.4	交際（飲食を含む）	29.1	理美容 身だしなみ	27.4
5	旅行	25.7	貯金	27.9	貯金	34.4	貯金	30.2	理美容 身だしなみ 交際（飲食を含む）	25.8 25.8	理美容 身だしなみ	25.0	理美容 身だしなみ	26.5	旅行	26.2

（n= 6,009 人、複数回答）

■今後お金をかけたい／今後もお金をかけたいもの（%）

順位	総数		10歳代後半		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
1	食べること	50.8	ファッション	57.8	貯金	67.2	貯金	68.4	貯金	59.8	老後の準備	54.7	食べること	47.2	食べること	54.7
2	貯金	44.5	食べること	56.1	食べること	57.5	食べること	54.2	食べること	46.9	貯金	49.2	老後の準備	44.4	医療	38.6
3	老後の準備	40.4	貯金	55.5	理美容 身だしなみ	51.2	教育（子どもの教育）	50.6	老後の準備	45.1	食べること	47.0	旅行	43.8	老後の準備	32.8
4	旅行	39.1	理美容 身だしなみ	49.8	旅行	50.2	旅行	45.6	教育（子どもの教育）	44.5	旅行	42.9	健康 リラックス	29.4	健康 リラックス	29.3
5	理美容 身だしなみ	30.8	スポーツ観戦 映画 コンサート鑑賞等	37.9	ファッション	48.3	老後の準備	41.5	旅行	35.7	健康 リラックス	30.4	医療	29.0	旅行	28.2

（n=6,009 人、複数回答）

出典：消費者庁　「消費者意識基本調査」　平成 28 年（2016 年）

イ　スローライフ志向の増加と移住の動き

近年、生活環境や人々の意識の変化から、のびのびとした子育てや農業・アウトドアの趣味の時間など、**生活の質や人生の楽しみを重視するスローライフ志向が増加**しています。このようなスローライフの実現や地域とのつながりを求め、**自然豊かな地域へと移住する動きも拡大**しており、地域の魅力向上に併せて、居住地を選択する上で重要となる仕事やくらしの情報発信が重要です。

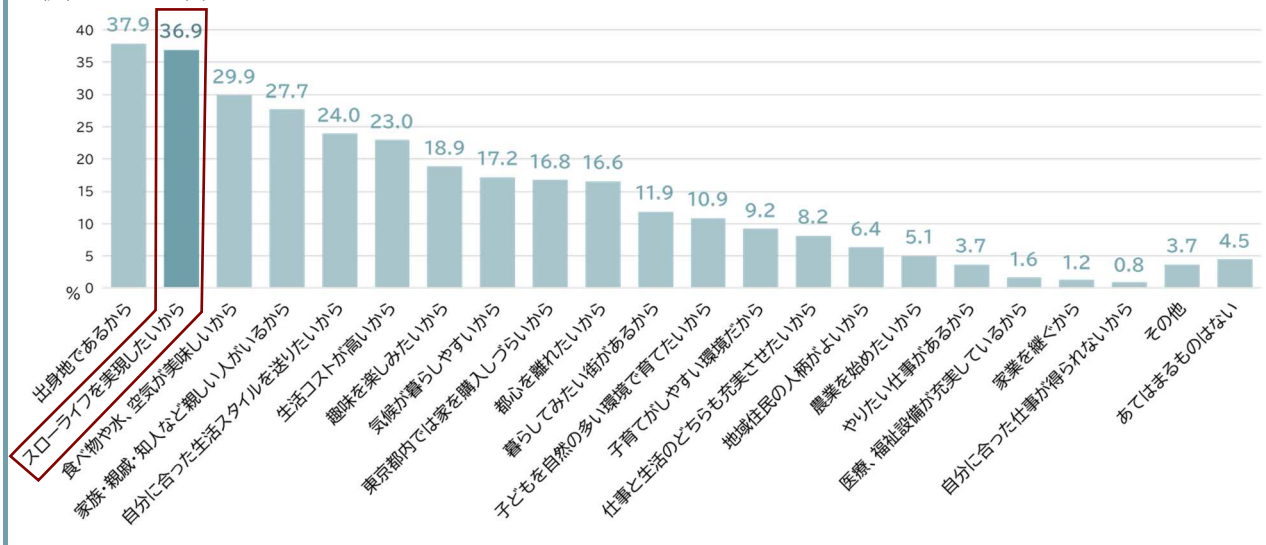
特に、個人のライフスタイルに大きな影響を与える「働き方」への意識にも変化が起きており、なかでも令和２年（２０２０年）の新型コロナウイルス感染症は、オフィスの縮小や働き方の変化に大きな影響を与え、ICT（情報通信技術）を利用し、**時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方としてテレワーク**[※11]は、急速に普及しました。

新型コロナウイルス感染症を契機に、今後、テレワークや時差通勤等が定着していくことが想定される中、都心から地方へと住まい選びの基準も変化していくことが予想されます。

都心から近く、本格的な自然が味わえる本市だからこそ実現できる新たなライフスタイルの発信により、関係人口、定住人口の創出を図っていくことが求められています。

参考：東京在住者の今後の移住に関する意向調査

■移住したい理由



（n=1,200 人、複数回答）

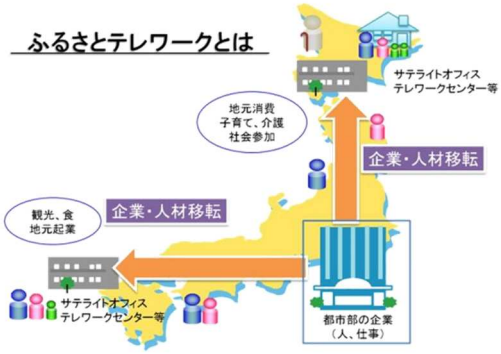
出典：内閣府　「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」　平成 26 年（2014 年）

※11　テレワーク：ICT を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。「tele ＝ 離れた所」と「work ＝ 働く」を併せた造語。

参考：ふるさとテレワーク

テレワークには、在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス勤務など様々な形態があります。

特に、総務省が推進するテレワークの一つである「ふるさとテレワーク」は、地方のサテライトオフィス等においてテレワークにより都市部の仕事を行うことで、都市部から地方への人や仕事の流れを創出し、地方創生の実現に貢献するとともに、地方における時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を促進するものとして期待されます。



出典：総務省 「テレワーク情報サイト」

ウ　インバウンド及び国内旅行需要への対応

訪日外国人旅行者数は、平成３０年（２０１８年）に3，１１９万人と過去最高を記録しており、インバウンド需要は近年急速に拡大しています。

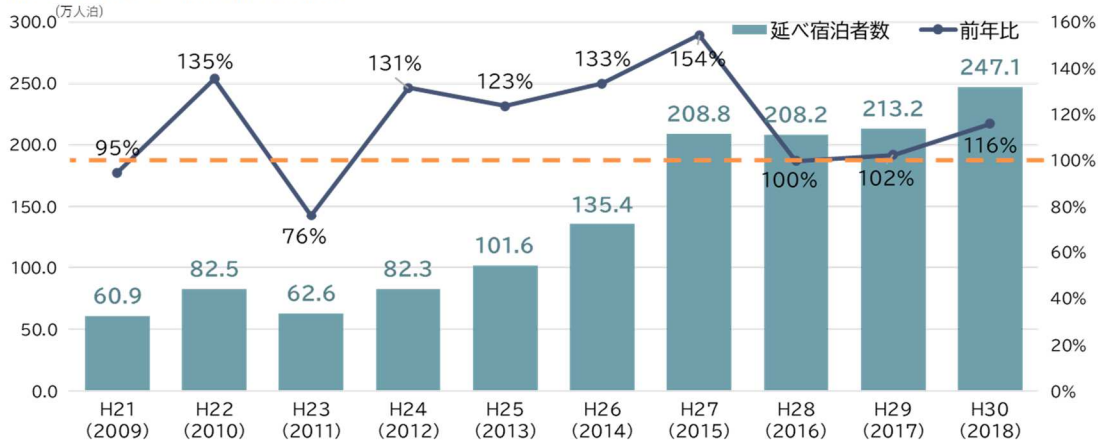
神奈川県でもその傾向は同様で、平成２１年（２００９年）に約６１万人であった**外国人延べ宿泊者数は、平成３０年（２０１８年）には約２４７万人まで増加**しており、**神奈川県への訪問目的としては、「自然体験」**を挙げる外国人観光客が最も高くなっています。

今後、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、当面の間、インバウンド需要の減少が想定されますが、本格的な自然が味わえる表丹沢を有する本市は、外国人観光客のニーズに合致しており、宿泊施設や多言語対応をはじめとした、外国人観光客の受入環境整備などを図っていくことで、インバウンド需要回復の受け皿となっていくことが期待されます。

また、国土交通省の令和２年度版「観光白書」によると、新型コロナウイルス感染症を経験した社会には、混雑や密集を避けた安全・安心な旅行環境づくりが求められるとされています。このようなことからも、表丹沢が有する都心からのアクセスの良さや、混雑と密集が避けられる多様な山岳・里山アクティビティフィールドの特徴を生かすことで、新しい国内旅行スタイルにも対応できることが期待されます。

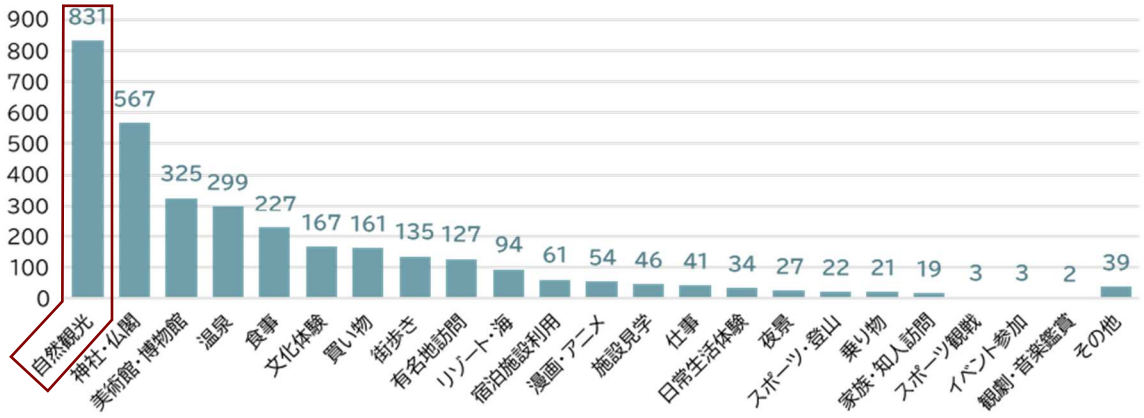
参考：神奈川県における外国人旅行者数の推移と訪問目的

■神奈川県の外国人延べ宿泊者数の推移



出典：観光庁 「宿泊旅行統計調査（各年）」より作成

■神奈川県各地域への来訪目的



（n=1,731 人、複数回答）

出典：神奈川県 「神奈川県外国人観光客実態調査」 平成 31 年（2019 年）

エ　新東名高速道路の開通と厚木秦野道路（国道２４６号バイパス）の早期事業化

令和５年度（２０２３年度）に全線開通予定の新東名高速道路により、現東名高速道路や圏央道（さがみ縦貫道路）を含めた広域道路網の充実が図られ、東西の交流圏の拡大による活性化が期待されます。

新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ及び秦野 IC（仮称）は、本市の新たな玄関口として、人やモノの流れを創出し、周辺の地域資源を生かした地域活性化への寄与が見込まれます。

さらに、厚木秦野道路（国道２４６号バイパス）は、全線の早期事業化を目指すことで、県央・県西部の新たな東西交通軸として、新東名高速道路と一体となった地域の交流と連携の強化等が期待されています。

秦野ＳＡ（仮称）周辺の整備イメージ

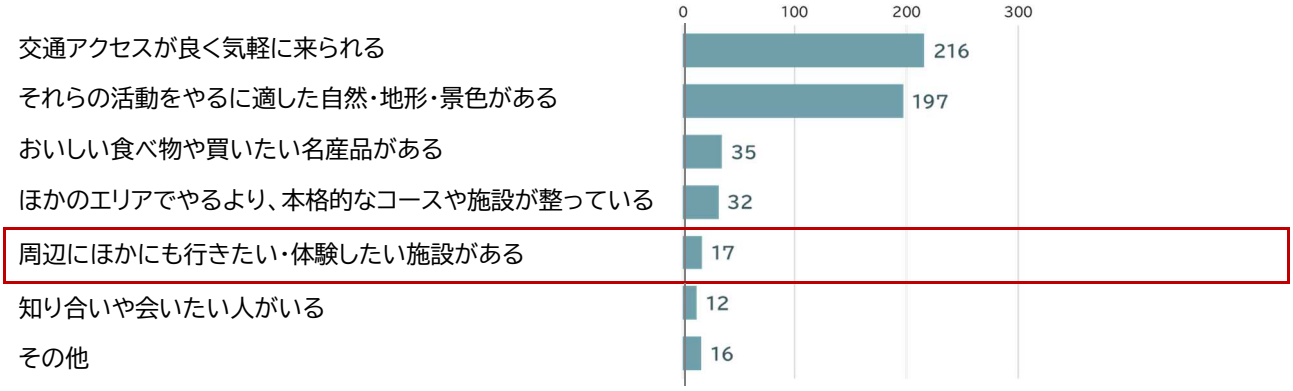
(2)　魅力向上に向けた課題

ア　効果的な魅力発信と回遊性向上

(ｱ)　表丹沢には、自然や歴史等の多くの資源があるものの、山岳・里山アクティビティは、個々での活動にとどまっており、エリア全体としての回遊性が低い状態です。

(ｲ)　表丹沢での山岳・里山アクティビティに関心が見られるものの、はじめて来訪した人が気軽に体験できる機会が少なく、また、それがどこで体験できるかなどの情報が行き届いていません。

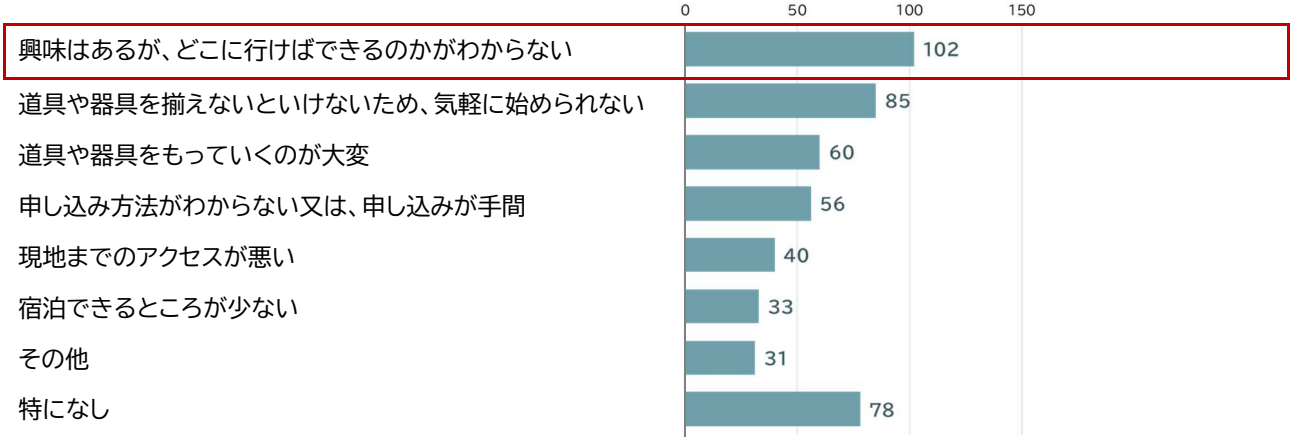
■表丹沢で山岳・里山アクティビティができる魅力



（n=350 人、複数回答）

出典：秦野市　「市民・来訪者アンケート調査」　令和元年（2019 年）

■表丹沢での山岳・里山アクティビティを体験するうえで支障となること



（n=347 人、複数回答）

出典：秦野市　「市民・来訪者アンケート調査」　令和元年（2019 年）

イ　山岳・里山施設の魅力向上

(ｱ)　市内に点在する山岳・里山に関連する施設の多くは、管理・運営主体が異なるため、施設間の連携が不可欠となります。

(ｲ)　表丹沢野外活動センターは、利用者のニーズに応じた幅広いサービス提供が望まれており、民間活力の導入等の対策が求められています。

(ｳ)　施設によっては、老朽化を迎えている建物等があり、改修や再整備等により施設を磨き上げることで魅力の向上が求められています。

■表丹沢における主な山岳・里山施設の分布

■主な山岳・里山関連施設の概要

No.	施設名	管理(運営形態)	開設年	主な施設
1	表丹沢野外活動センター	秦野市(市直営)	平成 19 年	研修棟、活動棟、キャンプ場、風呂棟、いろり棟、森林遊び場　等
2	田原ふるさと公園	秦野市(地元組織)	平成 12 年	直売所、そば屋、漬物加工場 水車小屋、広場　等
3	里山ふれあいセンター	秦野市(指定管理)	平成 13 年	研修室、木工実習室、炭焼き窯 等
4	ヤビツレストハウス(仮称)	秦野市(賃貸借)	令和3年(予定)	カフェ、厨房、休憩ｽﾍﾟｰｽ、物販ｽﾍﾟｰｽ　等
5	緑水庵	秦野市(地元組織)	平成3年	古民家、水車小屋　等
6	大倉高原	秦野市(市直営)	昭和 26 年	テントサイト
7	県立秦野戸川公園	神奈川県(指定管理)	平成9年	野球場、多目的グラウンド、川遊び場、BBQ 場、茶室　等
8	県立秦野ビジターセンター	神奈川県(指定管理)	平成9年	展示ｽﾍﾟｰｽ、図書ｺｰﾅｰ
9	県立山岳スポーツセンター	神奈川県(指定管理)	平成9年	屋外ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｳｫｰﾙ(ﾘｰﾄﾞ、ｽﾋﾟｰﾄﾞ) 研修室、ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｳｫｰﾙ(屋内･屋外)、宿泊室、食堂、厨房、シャワー　等
10	はだの丹沢クライミングパーク	秦野市(市直営)	令和2年	屋内ボルダリングウォール　等
11	県立秦野戸川公園レストハウス	神奈川県(許可に基づき市管理)	令和2年	飲食物販店
12	表丹沢県民の森	神奈川県(県直営)	昭和 49 年	あずまや、芝生広場、散策路　等
13	三ノ塔休憩所	神奈川県(県直営)	平成 31 年	休憩スペース
14	菜の花台園地	神奈川県（協定に基づき一部市管理）	平成7年	展望台、トイレ等

ウ　里地里山の適切な管理

(ｱ)　近年、丹沢一帯では、ヤマビルの被害が拡大しており、登山に対する敬遠や散策イベント等が中止になるなどの影響を及ぼしています。

(ｲ)　ヤマビル増加の背景には、森林の荒廃やシカ・イノシシ等の生息数の増加による里地里山への侵食が原因としてあげられ、農作物等への被害も課題となっています。

(ｳ)　本市では地域と協力しながら、草刈り、落ち葉かき、薬剤散布等の環境整備活動を実施していますが、これらの継続的な活動に併せて、里地里山の適切な管理により、鳥獣の生息域と農地との境界線づくりをするなど抜本的対策が求められています。

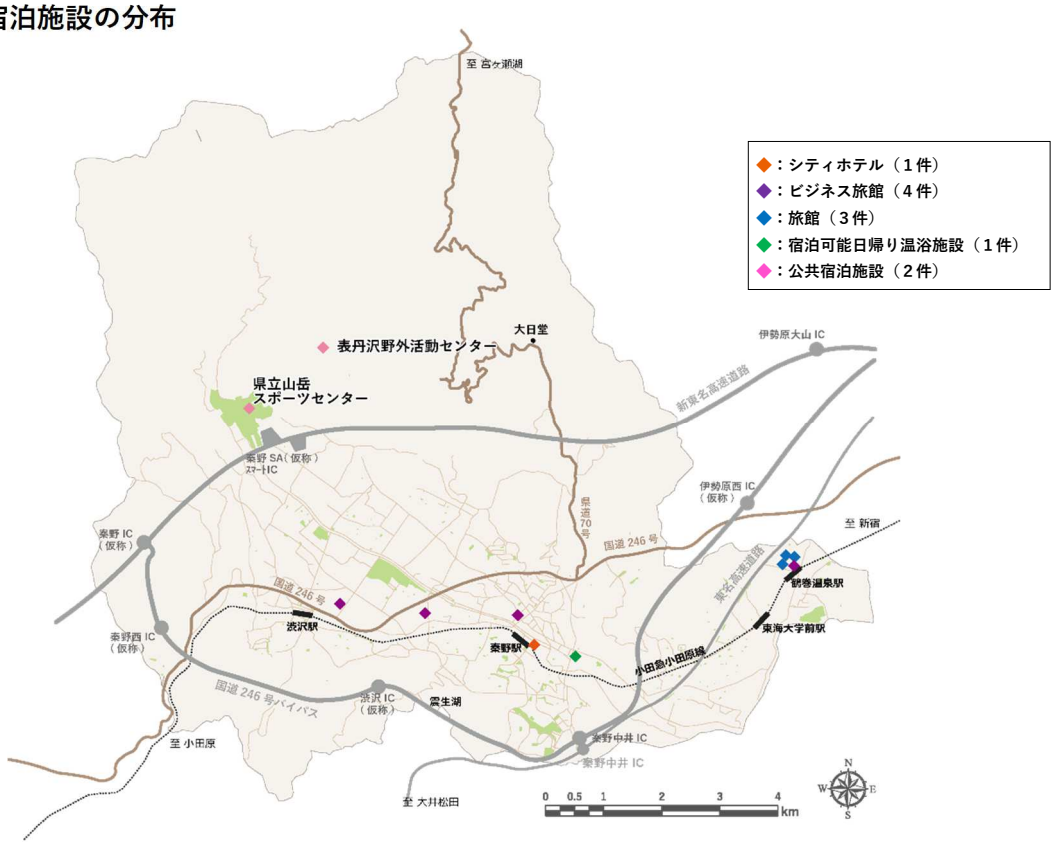
エ　周辺環境の変化に応じた基盤整備・対策の必要性

(ｱ)　県道７０号は、車のすれ違いが困難なほど狭い道幅やカーブの区間がありますが、一般車両や路線バスのほか、多くのサイクリストやハイカーも利用しています。また、サイクリストの下り坂でのスピードマナーも課題となっています。

(ｲ)　県立秦野戸川公園は、チューリップフェアや夏休みシーズン等において、常設駐車場のほかに多目的グラウンドを臨時駐車場として利用しています。

(ｳ)　市内には、日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯「鶴巻温泉郷」を有しており、首都圏近郊の温泉地として昭和６０年（１９８５年）には１４軒の旅館がありましたが、現在では半数以下にまで減少しています。また、市内全体でもホテル等の宿泊施設が少ない状況です。

■市内の主な宿泊施設の分布



注）　このほかにも、登山道沿いを中心に点在している山小屋などがあります。

オ　持続的な活動団体の在り方と連携の必要性

(ｱ)　里山ボランティア団体等は、それぞれの活動フィールドがあるものの拠点となる施設を持たない団体もあり、外部から活動の様子が伺いにくいのが実態です。

(ｲ)　団体の中には、メンバーの高齢化が進んでいるため、活動の継続性が課題となっている団体もみられます。

(ｳ)　里山ボランティア団体等が行う里山体験イベントなどは、首都圏からの若い世帯が多く参加しますが、単発的な来訪にとどまっており、本市の移住施策等と連携を図っていく必要があります。

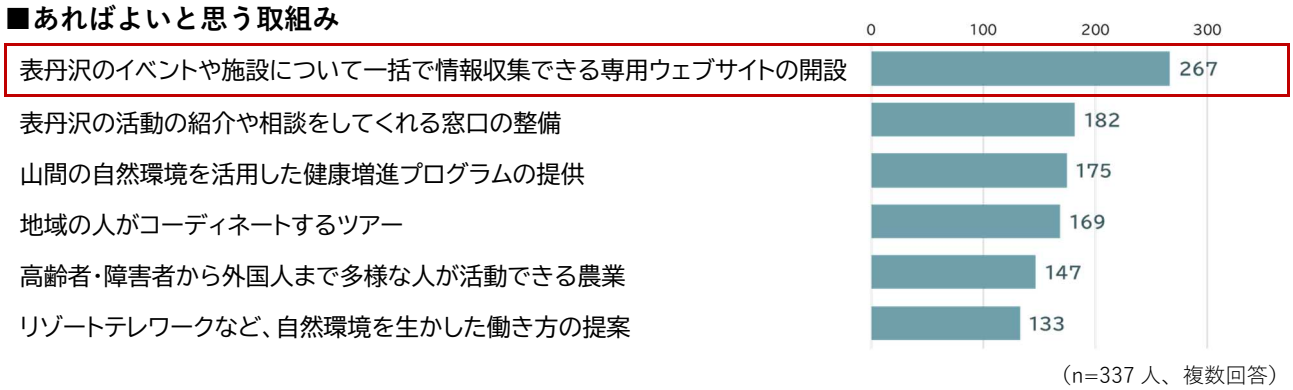
カ　適切で効果的な情報発信の必要性

(ｱ)　山岳・里山に関わる施設やイベントの情報は、施設ごとのホームページ、広報、チラシ等に分散しており、まとまって閲覧できるものがないため、効果的な情報発信ができていません。

(ｲ)　山の天気や安全情報など、最新の情報を一括して入手できる情報媒体がありません。

(ｳ)　近年、必要な装備をせず、軽装による登山や登山者カードを提出しないなど、安全登山に対する意識が低下しており、山での道迷いや滑落・転落などの遭難事故等が増加傾向にあります。

■あればよいと思う取組み



（n=337 人、複数回答）

出典：秦野市 「市民・来訪者アンケート調査」 令和元年（2019 年）

表丹沢のポテンシャル

表丹沢の資源や課題を踏まえ、強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）から、表丹沢のポテンシャルを整理します。

■表丹沢の SWOT 分析

プラス要因

S 強み

- ○ 都心からアクセスが良く、道路網も充実
- ○ 豊かで本格的な自然
- ○ 自然資源と関わりの深い歴史資源
- ○ 多様な農産物
- ○ 山岳・里山関連の活動や施設が充実
- ○ 地域の団体や人が多く活躍

O 機会

- ○ 新東名高速道路の開通
- ○ コト消費時代の到来
- ○ 移住や二拠点居住志向の高まり
- ○ 価値観の多様化
- ○ インバウンドの拡大
- ○ ＳＮＳ等によるＰＲ媒体の多様化

内的要因 ―― 外的要因

W 弱み

- ○ 回遊性を高める仕組みの不足
- ○ 山岳・里山で活動する様々な団体や施設間の連携不足と多様なニーズ
- ○ 深刻な有害鳥獣やヤマビルの被害
- ○ ホテルなどの宿泊施設不足
- ○ 情報発信不足

T 脅威

- ○ 少子高齢化による人口減少
- ○ 地域間競争の激化
- ○ 新型コロナウイルス感染症の影響

マイナス要因

表丹沢のポテンシャル

○ アクセスの良さや豊かな自然･多様な農産物などの地域資源を、観光や暮らしなど様々な視点から磨き上げ、日常ではなかなか味わえない体験の機会を増やすことで、**人それぞれの楽しみや魅力発見につなげる**ことができます。

○ アクセスの良さを生かしながら、今ある活動や施設間の連携、効果的な情報発信等を図ることで、リピーターの増加と回遊性を高め、**本市全体の活性化**につなげることができます。

○ 地域の人材を生かし、市民と来訪者の交流を創出することで、**市民は地域への愛着や誇り（シビックプライド）を高める**とともに、**来訪者は、親しみのもてる場所や第2のふるさととしての関係を築く**ことが期待できます。

第３章　表丹沢が目指す姿

魅力づくりビジョン

表丹沢には、農林業、観光、歴史、文化、スポーツなど様々な分野の資源があります。

また、新東名高速道路の全線開通により、首都圏や中部・関西方面等からの交通利便性が飛躍的に向上します。

このアクセスの良さを生かしながら、これら様々な分野の資源を磨き、つなげ、そして新たに触れる機会を増やすことで、一人ひとりが本物の魅力を見つけ出せる場所としていきます。

これにより市民は、いつも目の前にある風景や環境など、表丹沢が持つ資源の魅力を再認識し、地域への愛着や誇り（シビックプライド）を高め、豊かな暮らしを実現していきます。

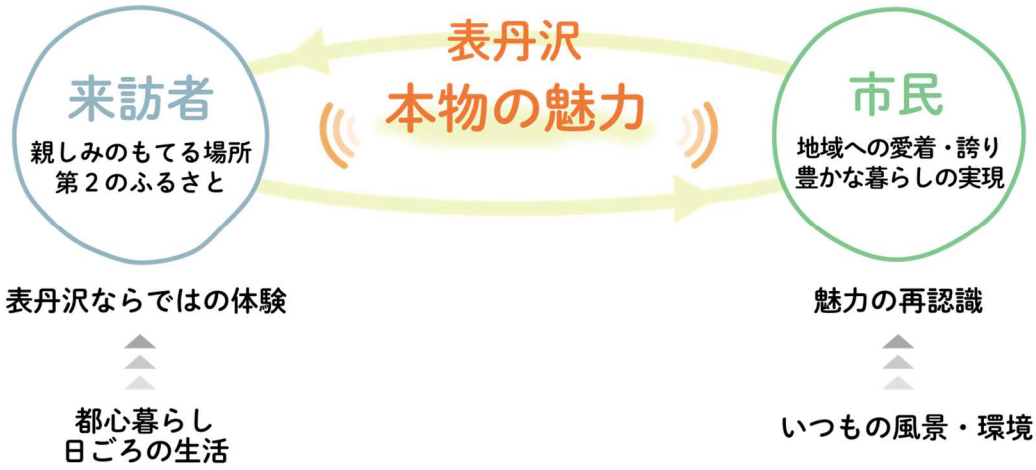
また、市外からの来訪者には、２度、３度と訪れていただく中で、都心や日常生活ではなかなか味わえない体験を通じ、親しみのもてる場所や第２のふるさととしての関係を築き、交流人口や関係人口を創出することにより地域の活性化にもつなげていきます。

そこで、表丹沢の魅力づくりに関わる全ての人の共通指針となる「魅力づくりビジョン」を掲げます。

■魅力づくりビジョン

「本物の魅力」が見つかる表丹沢

～わたしのいつもを変える、暮らしを高める～



市民

地域への愛着・誇り
豊かな暮らしの実現

小学生の子どもがいる
30 代夫婦

居住地：市内

プロフィール

・秦野駅近くの住宅地に在住
・パパは東京の IT 会社に勤務、ママは市内のカフェにパート勤務
・子ども連れでも楽しめるところがわからず、普段、表丹沢に行く機会はほとんどない

子どもの校外学習にて親子で土と触れ合いながら、落花生やさつまいもの掘り取りを体験し、その楽しさ・おいしさに感動！

家族で市民農園にチャレンジし、コミュニティが広がる

農家のおじさんが、秦野戸川公園でボルダリングができるって教えてくれたよ！やってみたい！

来訪者

親しみのもてる場所
第 2 のふるさと

20 代後半の独身女性

居住地：横浜市

プロフィール

・東京のデザイン会社に勤務
・大学生時代に秦野で一人暮らしをしていた
・アウトドアアクティビティが好きで、週末には友人を誘って車で遠征するのがマイブーム

車で新東名高速道路を走り、友人たちとキャンプに訪れる
まずは秦野 SA(仮称)で地域情報をゲット

ホームページにいろいろなアクティビティの情報が載っていて、ほかのものにも興味がわいてきた！

秦野市の総合ホームページを使って友人と沢登り体験を予約

60 代のシニア夫婦

居住地：東京都

プロフィール

・リタイア世代の夫婦
・東京で息子家族と二世帯住宅に居住
・都心から気軽に行ける日帰り登山が趣味

ロマンスカーで秦野入り！
秦野駅前のデジタルサイネージ※を見て今日の山の情報や市内の観光情報をチェック

※ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアのこと

ほかにもいろいろな観光スポットがあるのね
今回は泊まってみようかしら

登山帰りに宿泊し、翌日、観光農園を体験する

子どもたちは、
はだの丹沢
クライミングパークで
ボルダリングを
習い始める

道具のレンタル等の
設備が整っていて、
子ども連れでも気軽に
楽しめるんだな

市民農園で採れた
野菜を使い、秦野
戸川公園にて家族で
バーベキューを
するようになる

市内在住の
友人家族を誘って
表丹沢野外活動
センターでキャンプ
を楽しむ

**当たり前になっていた表丹沢の風景や
自然に実際に触れることで、もっと
秦野を好きになりました！**

資源ガイド養成講座を
受けて地域の歴史や
資源に詳しくなったよ

ヤビツレストハウス
(仮称)を拠点に、週末に
アウトドアのガイドを
するようになる

ロードバイクやパラグ
ライダーなど新たな
アクティビティにも
挑戦し始める

表丹沢で知り合った彼との
結婚を機に、秦野に移住！
転職はせず、週に2日ほどは
自然のなかでリモートワーク
（ふるさとテレワーク）

**他都市に住みながら、秦野で週末を
過ごすうちに、第２のふるさとの
ように感じられ、移住を決めました！**

観光案内所で紹介された
森林セラピーに参加
大日堂、緑水庵などの
歴史資源をめぐり、
新たな趣味となる

同じ趣味の仲間が
増えたからまた
来たくなるなぁ

仲間に紹介された
農家レストランが
気に入り、常連となる

農家レストラン店主の紹介で、
週末農業にも参加するようになり、秦野で採れた野菜を東京のご近所さんにもおすそ分け

**表丹沢での様々な体験を通じて、
お気に入りのお店や新しい仲間が増え、
親しみの持てる場所になりました！**

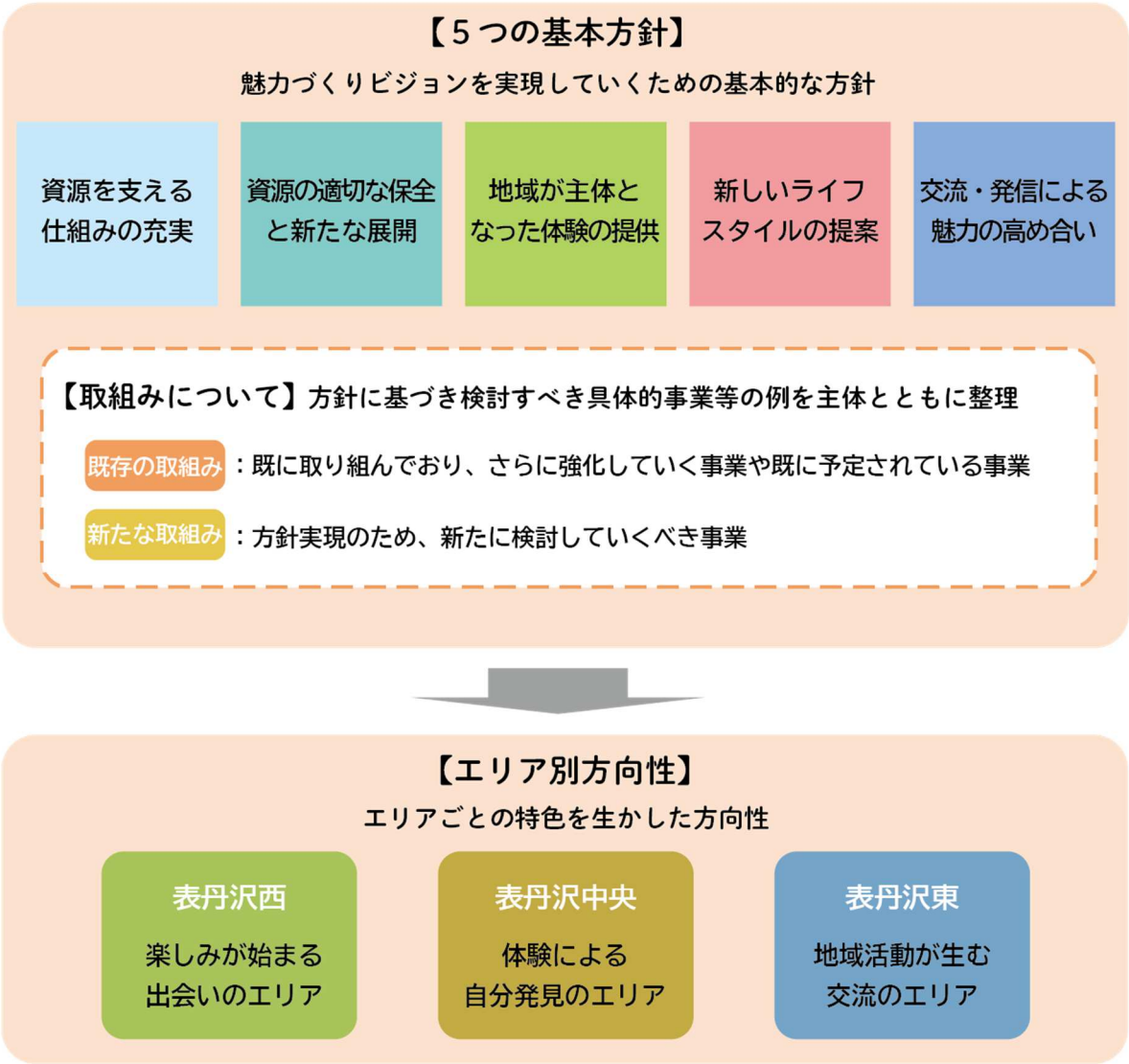
第４章　魅力づくり方針

魅力づくり方針は、魅力づくりビジョン“「本物の魅力」が見つかる表丹沢”を実現するため、表丹沢全体の方針を示す「５つの基本方針」と、エリアごとの特性を踏まえた具体的な方向性を示す「エリア別方向性」で構成します。

「５つの基本方針」は、社会潮流や表丹沢の課題を踏まえ、魅力づくりビジョンを実現していくための骨子となる方針を示します。

一方、「エリア別方向性」は、「５つの基本方針」を横断的に取り入れ、エリアの特性に応じた取組みを展開していくとともに、エリア間の連携を図っていくことで表丹沢全体の魅力向上につながる方向性を示します。

■魅力づくり方針の構成



1　5つの基本方針

魅力づくりを実現するための基本方針を5つのテーマで整理し、具体的な取組みの方針を示します。

「本物の魅力」が見つかる表丹沢

方針1　資源を支える仕組みの充実

1　「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としてのブランディング
2　活動を支える拠点形成
3　回遊と滞在を高める仕掛けの充実
4　安全・安心に楽しむための基盤整備

方針2　資源の適切な保全と新たな展開

1　資源の新たなプロモーション
2　遊休地等の有効活用
3　二次林の活用等による適切な自然保護の推進

方針3　地域が主体となった体験の提供

1　地域特性を生かしたコンテンツの強化
2　地域による魅力の発信と交流

方針4　新しいライフスタイルの提案

1　市民の暮らしに身近な表丹沢
2　表丹沢での新たな楽しみ・暮らしの提案

方針5　交流・発信による魅力の高め合い

1　情報プラットフォームの充実
2　周辺地域との連携による魅力の広がり

方針１　資源を支える仕組みの充実

表丹沢には、農林業、観光、歴史、文化、スポーツなど様々な分野の資源があり、これらを生かした魅力発信による更なるエリア価値の向上が期待されています。様々な分野の資源を磨き上げていくとともに、体験の提供とそれを支える拠点形成を目指し、各活動をつなげる仕組み等を整えることで、地域特有の魅力づくりを進めていくことが重要です。

１　「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としてのブランディング※12

表丹沢は、都心からわずか１時間という立地でありながら、四季折々の表情を見せる豊かな自然を有しています。表丹沢の山々では、登山や沢登り、トレイルランニング、サイクリング等の本格的な体験が楽しめます。

一方、麓では、観光農業、キャンプ・バーベキュー、歴史・文化遺産巡りといった、ゆとりある体験が楽しめます。

このように、奥山から里地里山まで、標高により様々な体験が楽しめる表丹沢は、子どもから高齢者、初心者から熟練者まで、幅広い層を受け入れられるのが魅力といえます。

そこで、山岳・里山にある様々な分野の資源を磨き、新たなニューツーリズム※13の確立等によりブランディングすることで、**「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としての認知度向上を図り、親しみやすい場所**へとしていきます。

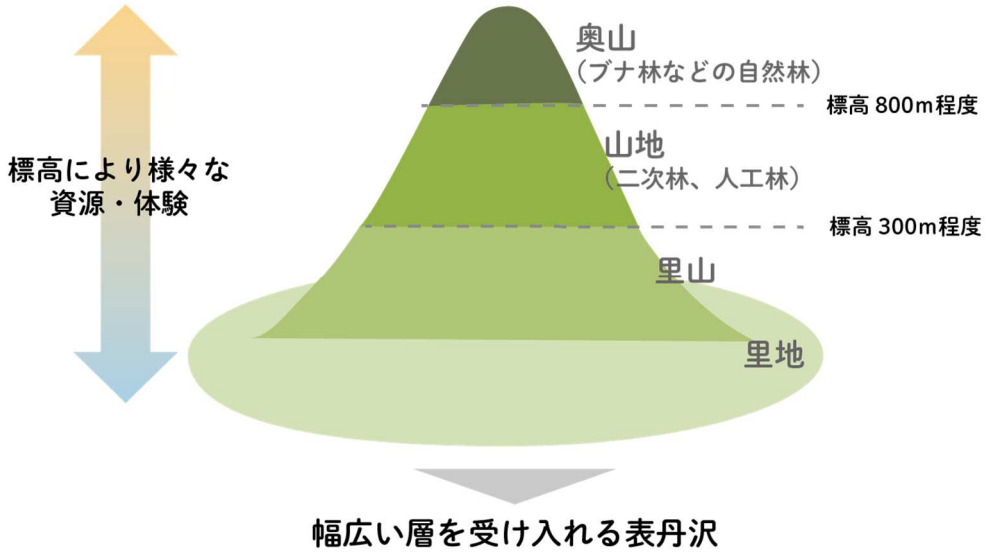
また、表丹沢一帯で展開する様々な分野の資源を結びつけ、表丹沢の魅力を最大限生かすことにより、市外からの交流人口や関係人口を創出し、地域の活性化につなげていくことで、**「地域循環共生圏※14」の構築を推進**します。

既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	ニューツーリズムの推進	秦野市、市民・活動団体、民間事業者
2	ブランドメッセージやロゴ等の作成、拡散	秦野市、市民・活動団体、民間事業者
3	「表丹沢魅力づくり構想コンセプトブック」の作成、周知	秦野市
4	ターゲットやテーマによって異なる情報発信	秦野市、秦野市観光協会、市民・活動団体、民間事業者

※12　ブランディング：その地域に存在する自然、歴史・文化、観光等の地域資源の付加価値向上を図ること。
※13　ニューツーリズム：テーマ性の強い体験型の新しいタイプの旅行とその旅行システム全般を指す。テーマとしては、エコツーリズム、グリーンツーリズム、スポーツツーリズム、アウトドアツーリズム、ロングステイなど。
※14　地域循環共生圏：各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。

■多様な資源・体験を生む表丹沢の地形



取組み 「地域循環共生圏」の取組み

平成３０年４月閣議決定された第五次環境基本計画では、目指すべき社会の姿の一つとして「地域循環共生圏」の創造を打ち出しました。「地域循環共生圏」とは、『各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と共生・対流し、より広域的なネットワーク（自然的なつながり（森里川海の関連）や経済的つながり（人、資金等））を構築していく』ことで、新たな価値の連鎖を生み出し、地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かすという考え方です。

本市では、この考え方に基づき活動する「地域から森里川海のつながりの回復に取り組む首長の会」に参加するとともに、環境省の地域循環共生圏実践地域に登録しながら、里地里山の計画的な保全及び管理に取り組んでいます。

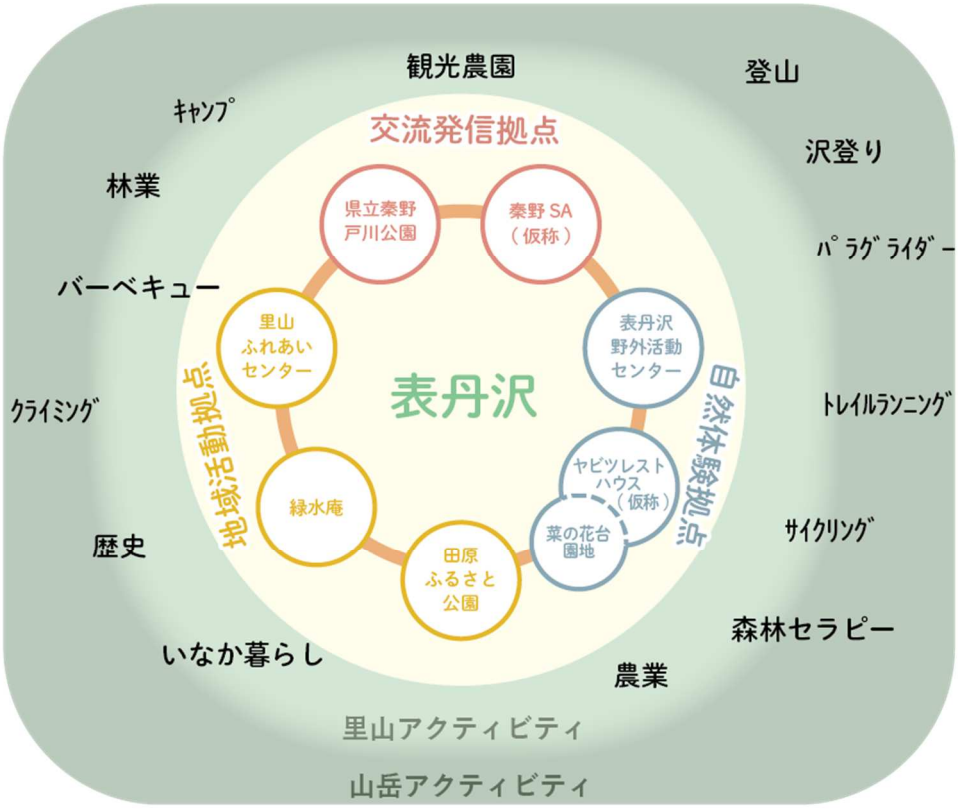
2　活動を支える拠点形成

市内には、山岳・里山・農業・文化・歴史等に関する施設が点在しています。これらの施設を立地や周辺の資源等の特性を踏まえ、「交流発信拠点」、「自然体験拠点」、「地域活動拠点」に位置付けます。

施設ごとに特徴の異なる施設づくりを進めることで、**多様な活動を支える拠点性を高めるとともに、新たな交流や活動をもたらす場所**としての機能を高めていきます。

なお、拠点形成に向け、市所有施設においては、必要に応じて、運営の見直しや施設の改修等を検討していきます。

■特徴の異なる拠点形成のイメージ



交流発信拠点

交流発信拠点では、情報発信や市民等による表丹沢の魅力発信により、「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」として認知度向上を図り、ブランディングの強化をしていくとともに、来訪者が自分に合った楽しみ方を見つけられる出会いの場となる拠点の形成を目指します。

自然体験拠点

自然体験拠点では、地域固有の自然や歴史・文化等の資源の活用により、体験を支える機能を強化することで、表丹沢の魅力を体感しながら発見してもらうとともに、人それぞれの楽しみを提供できるような拠点の形成を目指します。

地域活動拠点

地域活動拠点では、地域の人材や地場産品の活用により、地域活動を活性化させ、魅力を発信し、地域と来訪者の交流を創出することで、地域への愛着や誇りの形成につなげていくとともに、魅力的なスローライフを発信できる拠点の形成を目指します。

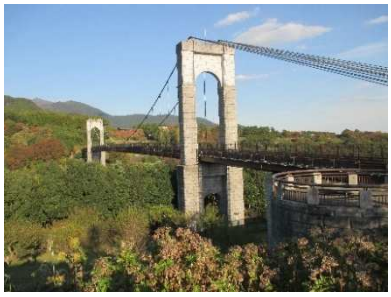
交流発信拠点

1　県立秦野戸川公園

特性	(1)　新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣに近接しています。 (2)　園内には水無川が縦断しており、夏場は川遊びやバーベキュー利用者でにぎわいます。 (3)　西側エリアは、パークセンターや秦野ビジターセンターがあり、大倉登山口として多くの登山者が利用しています。 (4)　東側エリアは、山岳スポーツセンターやはだの丹沢クライミングパーク等のクライミング施設があり、山岳スポーツセンターは宿泊が可能です。
方向性	(1)　県との連携によるファミリー層など表丹沢の自然を気軽に楽しむスポットとしてのサービス向上策の検討 (2)　新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣの開設による利便性向上を見据えた、公園の更なる魅力向上の促進 (3)　沢登りなど周辺のアクティビティとクライミング施設が連携したプログラムの提案等によるクライミングの普及促進

2　秦野ＳＡ（仮称）

特性	(1)　スマートＩＣが併設されるため、市内への新たな人・モノの流れの創出が期待されます。 (2)　ぷらっとパーク駐車場※15 が整備予定であり、多くの近隣住民等の利用も想定され、新たなにぎわいの拠点として期待されます。
方向性	中日本高速道路(株)との連携による表丹沢の玄関口として、表丹沢の資源や体験等の情報発信拠点としての機能検討



県立秦野戸川公園

秦野ＳＡ(仮称)イメージ図
出典：中日本高速道路（株）

※15　ぷらっとパーク駐車場：近隣の住民等が一般道からＳＡ・ＰＡの施設を利用できるように整備したもの。

自然体験拠点

1　表丹沢野外活動センター

特性	(1)　丹沢大山国定公園内、標高約４００ｍの表丹沢の麓にあり、周辺には葛葉の泉や桜沢林道があり、自然に囲まれています。 (2)　施設内には、宿泊施設やキャンプ場のほか、風呂棟やいろり棟、森林遊び場（アスレチック）等が整備されています。
方向性	(1)　利用者目線に立った柔軟な施設利用方法の検討による利用者の増加及び満足度の向上 (2)　民間活力を導入した運営体制の見直し（指定管理者制度の導入等）による山岳・里山アクティビティの活動を支える拠点としての活性化 (3)　周辺の林道や他の施設との連携による山岳･里山アクティビティの活性化

2　ヤビツレストハウス（仮称）・菜の花台園地

特性	(1)　ヤビツ峠は、塔ノ岳や大山への登山口であるとともに、ドライブやツーリング、サイクリングの休憩スポットとしてもにぎわっており、県道７０号は宮ケ瀬方面へとつながっています。 (2)　菜の花台園地は、県道７０号の途中にある景観スポットで、トイレやベンチ等が整備されており、ドライブやツーリング、サイクリングの休憩スポットとなっています。また、展望台もあり、市街地から相模湾までを一望でき、夜景のスポットとしても有名です。
方向性	(1)　ヤビツレストハウス（仮称）は、登山やサイクリングを中心とした山岳アクティビティの活動を支える機能の充実及び多様なアクティビティの交流による新たな活動の創出や展開づくり (2)　菜の花台園地は、ヤビツレストハウス（仮称）との一体的な活用の検討のほか、県との連携による休憩スポットの魅力向上策として、自動販売機等の設置検討及び表丹沢のほか周辺市町村の資源や体験等の情報発信のため、デジタルサイネージ※16 等の活用検討

表丹沢野外活動センター

ヤビツレストハウス(仮称)（完成イメージ）

菜の花台園地

※16　デジタルサイネージ：公共空間、交通機関、商業施設等において、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアの総称。

地域活動拠点

1　田原ふるさと公園

特性	(1)　周辺には、源実朝公御首塚や波多野城址など歴史・文化遺産が多く立地しています。 (2)　東側の高台からは、田園風景と富士山の眺望が楽しめます。 (3)　施設内の「ふるさと伝承館」は、農産物直売所、そば処「東雲」、漬物加工施設があり、そば打ち体験もできます。 (4)　近隣住民だけでなく、市内外からドライブ客やサイクリスト等も多く訪れています。
方向性	(1)　近隣住民や来訪者が利用する景観を生かした休憩スポットとしての魅力向上 (2)　農業や周辺の歴史・文化遺産等との連携による地域と来訪者の交流創出

2　緑水庵

特性	(1)　県道７０号沿いの蓑毛集落にあり、蓑毛自然観察の森の入り口に位置しています。 (2)　昭和初期の農家住宅で、国の登録有形文化財に登録されており、施設内には葉たばこ栽培の農具等が置かれています。 (3)　地元団体が実施しているお月見や紅葉ライトアップ等のイベントには、市内外から多くの人が訪れています。
方向性	(1)　葉たばこ耕作や蓑毛の大山道としての歴史の継承 (2)　地元小中学生等の校外学習や農業体験によるいなか暮らしの魅力発信

3　里山ふれあいセンター

特性	(1)　表丹沢の山麓に位置しており、施設内には、林業や木工に関する研修室や実習室があります。 (2)　現在は、秦野市森林組合が指定管理者として管理運営を行っています。
方向性	(1)　里山活動団体の活動を支える拠点としての機能強化 (2)　林業体験等を通した林業に対する市民等の関心の高まりや森林整備ボランティアの体験等による林業活性化

田原ふるさと公園

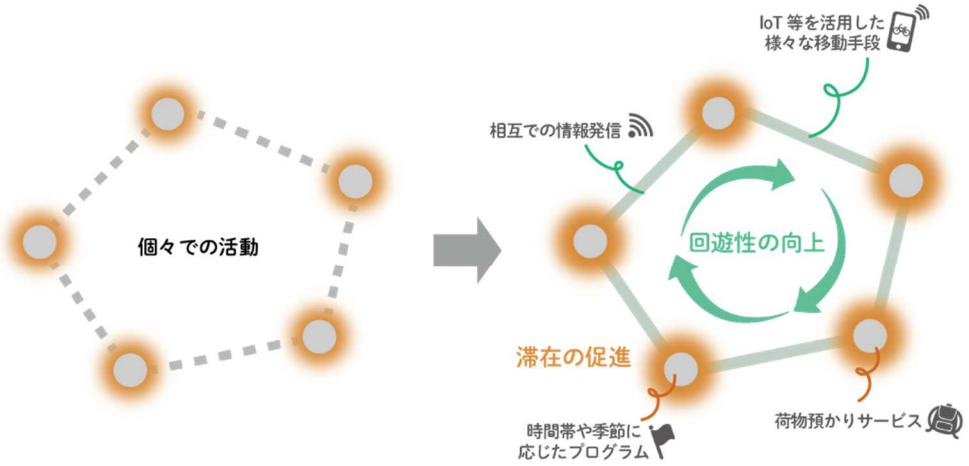
緑水庵

里山ふれあいセンター

3　回遊と滞在を高める仕掛けの充実

ＩｏＴ[※17]等の活用により、交通手段に応じた移動の利便性向上や施設間の連携を図ることで、一目的地だけでなく**様々な資源をつなぎ、回遊性を高める**とともに、時間帯や季節に応じたプログラムづくりや荷物預かり等の気軽に立ち寄りやすいサービスを提供し、**いつ来ても楽しめる体験**の提供につなげていきます。

■回遊性の向上と滞在促進のイメージ



新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	林道の活用 (1)　市営林道：イベント等の開催の積み重ねによる有効活用方策の検討 (2)　その他林道：関係機関との調整による活用可能性に向けた検討	秦野市、 秦野市森林組合、 神奈川県
2	観光農園の拡充と連携 (1)　駐車場やトイレを併設した新たな観光農園の開設支援 (2)　総合ホームページの活用等による観光農園の情報発信促進 (3)　農園ハイクの充実	秦野市、 ＪＡはだの、市内農家
3	案内看板等の設置促進とデザインコード[※18]の検討	秦野市、神奈川県、 民間事業者
4	宿泊施設の可能性検討	秦野市、民間事業者

※17　ＩｏＴ：Internet of Things（モノのインターネット）の略。様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。
※18　デザインコード：景観等の秩序を形成するために設ける「配置」、「色」、「形」、「素材」等の要素に関するルール。

No.	取組事例	主体
5	駅や拠点施設における大型ロッカーの設置や荷物預かりサービス、サイクルラックの設置検討	秦野市、民間事業者
6	市街化調整区域※19 における観光資源に有効な建築などを認めていくルールの検討	秦野市
7	時間帯や季節に応じたイベントやサービスの検討	秦野市、民間事業者

【参考事例】

●共通サイン（長野県・木曽地域）

共通デザインによる観光や地域案内板を設置。
広域連携により共通デザインの看板を設置することで行政界を意識せず連続性のある情報提供を行っています。
出典：木曽広域公式観光サイト木曽路.com

●手荷物預かり所（長野県・松本市）

上高地観光センター内にある有料の手荷物預かり所。周辺には温浴施設もあり、下山後、着替えを受取り、入浴に行くこともできます。
出典：上高地公式ウェブサイト（上高地観光旅館組合）

4　安全・安心に楽しむための基盤整備

県道７０号や秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ周辺は、表丹沢での活動を支える重要な交通基盤です。必要に応じて道路交通網、道路整備及び交通ルール等の検討を行うことで、交通環境を快適にし、**安全・安心に楽しむための基盤**を整えていきます。

既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ外周道路等の整備	秦野市、神奈川県

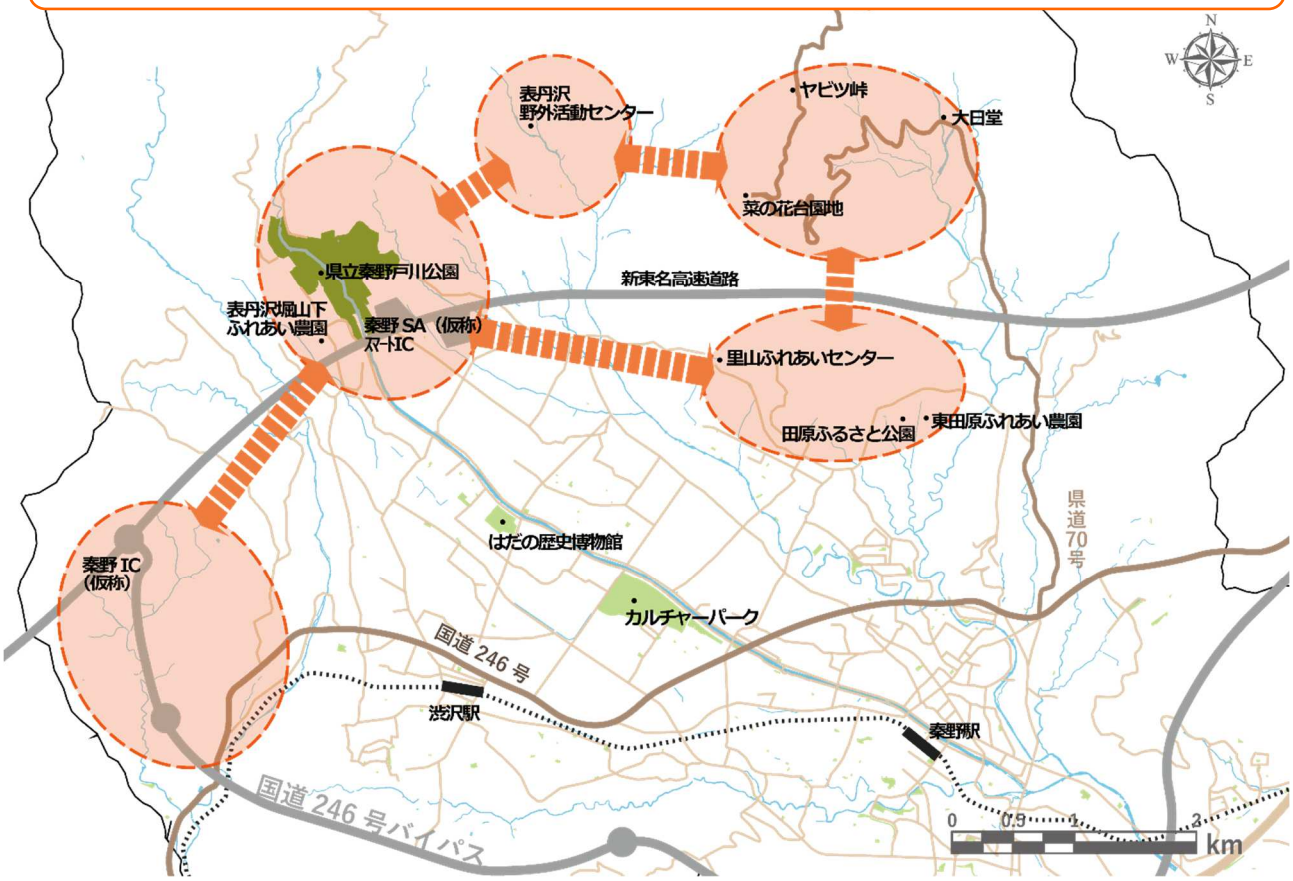
※19　市街化調整区域：都市計画法に基づき指定される、区域区分（線引き）の一つ。市街化を抑制すべき区域で、この区域では、原則、開発や建築等が制限される。

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	県との連携による県道７０号の道路拡幅や歩道設置等の可能性検討のほか、効果的な交通ルールと周知方法の研究	秦野市、神奈川県
2	秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ周辺施設間の連携向上を図るアクセス道路の整備検討	秦野市

■新東名高速道路周辺における道路網検討の基本的な考え方

新東名高速道路の全線開通を見据え、来訪者を県立秦野戸川公園や表丹沢野外活動センターなど表丹沢の周辺施設に誘導できる道路網を検討し、今後の道路整備に必要な目標やコンセプトの形成を推進します。



注） は、表丹沢の周辺施設間のネットワークをイメージしたものです。

方針２　資源の適切な保全と新たな展開

表丹沢の最大の魅力である森林や里山等の自然資源は、本来の自然の豊かさを継承しながら、時代にあった活用をしていくことが望まれます。適切な保全と地場産品等の新たな形での魅力発信が期待されます。

1　資源の新たなプロモーション

落花生やそば、お茶をはじめとした農産物や環境省選定の「名水百選」の水、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザに提供した木材など表丹沢が有する様々な名産品をより身近なものや手に取りやすいものとして消費につなげていくため、農家や製造・加工、流通・販売等との異業種連携による魅力向上や時代のニーズに応じた新たな生産形態により、**独創的かつ高付加価値な名産品の創出**を図っていきます。

既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	はだのブランド認証品の拡充	秦野市、 はだのブランド推進協議会、 民間事業者
2	秦野名水の利活用	秦野市、秦野市観光協会、 民間事業者
3	地場産農産物等を活用した農家レストランの検討	秦野市、市内農家、 民間事業者

取組み　はだのブランド

秦野市ならではの魅力ある商品やサービス、さらには観光資源などを「はだのブランド」（ブランド名『みっけもん秦野』）として認証しています。

取組み　秦野名水

秦野市域に存在する地下水を水源とする水を「秦野名水」と呼称を統一し、秦野名水を使用した商品のラベル等にロゴマークを表示することで普及啓発を図っています。

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	地場産農産物等を活用した農家や製造・加工、流通・販売等との異業種連携による更なる６次産業活性化策の検討	秦野市、ＪＡはだの、市民・活動団体、民間事業者
2	地域景観拠点※20の登録、保全及び活用	秦野市、市民・活動団体、民間事業者

【参考事例】

●ながとラボ（山口県長門市）

長門市の地域産業発展、所得向上、次世代担い手・雇用の創出を目的に作られた官民連携型６次産業化支援施設。

出典：ながとラボ公式ホームページ

2　遊休地等の有効活用

表丹沢には、遊休ゴルフ場や大倉高原など十分な活用が図られていない資源が点在しており、これらの**適切かつ有効な土地利用を行うことで更なる魅力向上**を図っていきます。

また、県との連携による県立秦野戸川公園未開設区域の活用検討や、周辺道路網の整備検討に取り組むことで、新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣからの更なる流入人口の誘導が図られ、地域活性化につながることが期待されます。

大倉高原

既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	大倉高原の活用 (1)　テントサイトを生かした環境整備 (2)　新たな山岳ハイキングコース及び案内サインの整備 (3)　県立秦野戸川公園利用者等をターゲットにした気軽なハイキングコースの効果的な情報発信 (4)　利用者へのニーズ調査等による再整備の方向性の検討	秦野市

※20　地域景観拠点：「秦野市景観まちづくり条例」に基づき、地域の景観資源の保全及び活用を目的に、地域の景観まちづくりの拠点となり、景観の視点から特に重要な価値があると認められる景観資源のうち、規則で定める要件を満たすもの。

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	県との連携による県立秦野戸川公園未開設区域の活用検討	秦野市、神奈川県
2	森林資源の活用など表丹沢の魅力向上につながる羽根スポーツ広場（仮称）用地の有効利用策の検討	秦野市
3	遊休ゴルフ場の活用策の検討	秦野市、民間事業者

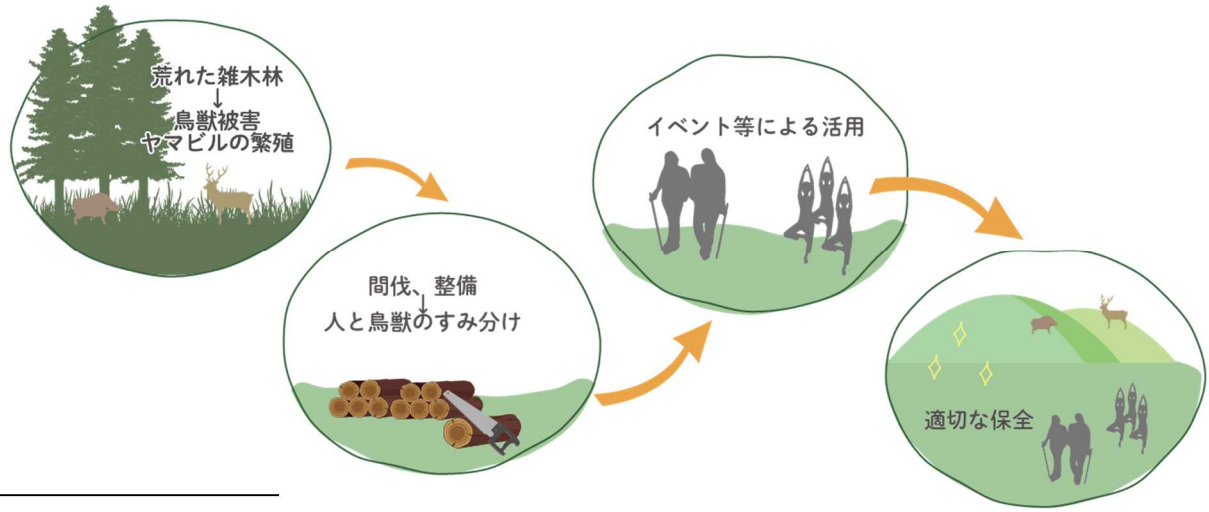
3　二次林※21の活用等による適切な自然保護の推進

里地里山の中核を成す二次林の間伐や雑木林等での定期的なイベント等の開催により、シカやイノシシ等の被害拡大を防ぐとともに、**適切な自然保護**を誘導していきます。

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	雑木林等での定期的なイベント開催	秦野市、秦野市森林組合、市民・活動団体、
2	雑木林等を活用したハイキングコース等の検討	秦野市、秦野市森林組合、秦野市観光協会、市民・活動団体
3	森林整備ボランティア養成講座の開催	秦野市、秦野市森林組合、市民
4	里山林整備に伴う間伐材を活用した木質バイオマス導入の検討	秦野市、秦野市森林組合、市民・活動団体

■二次林の適切な保全サイクル



※21　二次林：人為的あるいは自然災害等により森林が破壊された跡に、土中に残った種子や植物体の生長等により成立した森林。

方針３　地域が主体となった体験の提供

資源の磨き上げだけでなく、そこでの体験を提供することで、一人ひとりが本物の魅力を見つけ出していくことが重要です。そこの地域でしか味わえない体験とそこでの人との出会いの創出により、また訪れたくなる表丹沢を目指します。

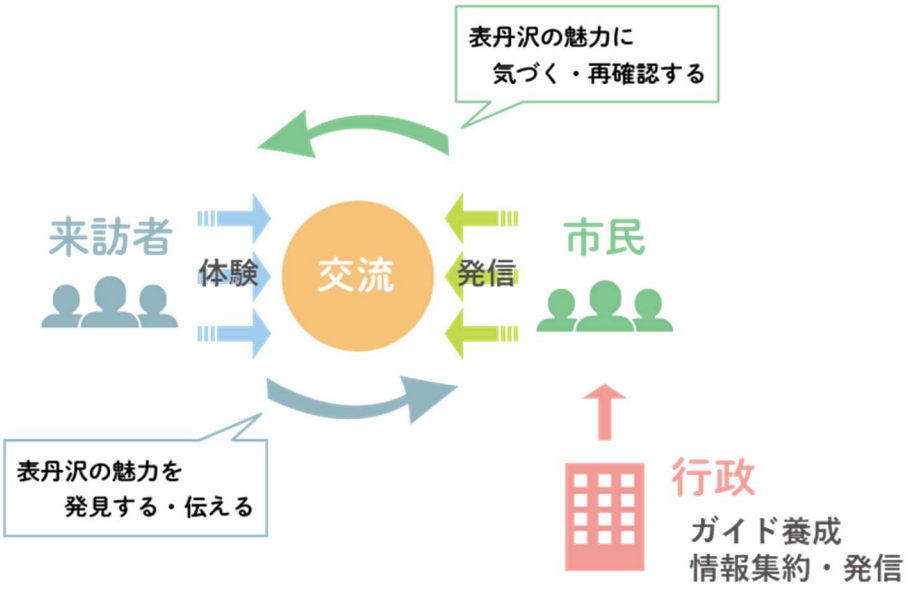
１　地域特性を生かしたコンテンツ※22の強化

表丹沢は、地域により歴史や地勢など固有の特性を持っており、活動もそれぞれで特性が異なります。地域ごとにカラーの異なるコンテンツづくりを強化し、**ここでしか味わえない体験**を提供していきます。

２　地域による魅力の発信と交流

それぞれの地域には、そこで暮らす人だからこそ知っている多くの魅力が存在します。地域による多角的な魅力発信により、資源の高付加価値化を図るとともに、地域と地域以外の人との交流が生まれることで、**また訪れたくなる場所づくり**を目指します。

■地域による魅力発信のサイクル



※22　コンテンツ：ここでは、歴史や地勢、人々の活動などの資源を活用した、楽しみのために提供できる体験やサービスのことをいう。

新たな取組み

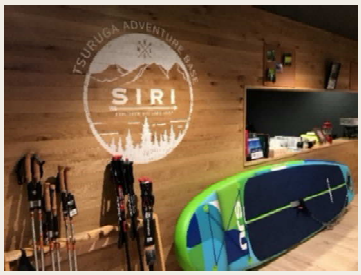
No.	取組事例	主体
1	市や観光協会と市民・活動団体の連携による体験型ツアーの開催	秦野市、秦野市観光協会、市民・活動団体
2	各拠点における表丹沢やアウトドアに精通したスタッフの配置	秦野市、神奈川県、民間事業者、市民・活動団体
3	夏休み等を利用した子ども向け自然学校（サマースクール等）の推進	秦野市、市民・活動団体
4	表丹沢の資源を活用した教育関連施設の検討	秦野市、民間事業者

【参考事例】

●なべくら高原・森の家（長野県・飯山市）

自然体験イベント、里山の文化を体験するプログラム、環境教育等を提供する宿泊型体験施設。体験プログラムは 300 種以上あり、常駐のインストラクターと市民インストラクターにより企画・運営を行っています。
出典：なべくら高原・森の家公式ホームページ

●TSURUGA アドベンチャーベース SIRI（北海道・釧路市）



阿寒湖エリアのホテル内にある体験型観光拠点。施設にはアウトドアに精通した専任スタッフが常駐し、ツアーの案内や相談を受け付けており、ホテル宿泊者以外も利用可能となっています。

● 森のがっこう（東京都・奥多摩町）

夏休み期間を活用した小学生向けの登山・ラフティング・科学実験・工房で工作・英語・クッキング等の５日間体験プログラム。宿泊体験も行っています。
出典：みらいの森プロジェクト公式ホームページ

● 千葉大学セミナーハウス（山梨県・山中湖村）

学生及び職員向けの厚生保養・研修等施設。自然に囲まれた環境を生かしながら、集中授業や課外活動を行う拠点として利用されています。
出典：千葉大学公式ホームページ

方針４　新しいライフスタイルの提案

表丹沢は、本市最大の地域資源であり、来訪者だけでなく市民にとっても豊かな暮らしにつながるものとしていくことが期待されます。新型コロナウイルス感染症を契機に、暮らし方や働き方が変化していくことが想定される中、豊かな暮らしを実現する環境や資源を持つ表丹沢に市民が触れ、地域の魅力を再発見することで、地域への愛着や誇りを創出していくことが重要です。

１　市民の暮らしに身近な表丹沢

観光視点の限られたコンテンツの提供を続けるだけでなく、市内で生活する人それぞれの暮らしに関わる取組みを推進することで、表丹沢と市民がより近いものとなります。**都市と自然が融合した質の高い暮らし**を提供し、**市民一人ひとりが愛着や誇りを持って、表丹沢の魅力を広める担い手**となることを目指します。

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	市民による資源ガイド（養成講座や市民インストラクター制度の導入）	秦野市、秦野市観光協会、市民・活動団体
2	農福連携（農家と福祉施設のマッチング等）	秦野市、神奈川県、ＪＡはだの、市内農家、民間事業者

【参考事例】

●飯能市エコツアーガイド養成講座（埼玉県・飯能市）

実際にエコツアーを企画・運営するに当たり、市が事務局になりガイディングや企画、運営方法に関する講習を行っています。
出典：飯能市エコツーリズム公式ホームページ

●農福連携マッチング（栃木県）

栃木県による農業者と障害者福祉施設の農作業の受委託を進めるためのマッチング事業。真岡市内では、大豆農業者と福祉施設とのマッチングが実現し、福祉施設利用者が雑草の除去などの作業を行っています。
出典：栃木県公式ホームページ

No.	取組事例	主体
3	ふるさとテレワークの推進	秦野市、民間事業者
4	地元小中学生向けの校外学習による山岳・里山アクティビティ活動の推進	秦野市、地元小中学校

【参考事例】

●信濃町ノマドワークセンター（長野県・信濃町）

長野県による信州リゾートテレワーク拠点整備事業のモデル地区に指定されており、信濃町の交流人口の増加及び町内消費の拡大につなげることを目的としています。
出典：信濃町ノマドワークセンター公式ホームページ

●弁城小学校宿泊体験活動（福岡県・福智町）

福岡県福智町の弁城小学校では、自然の中での集団宿泊活動を目的に、４～6 年生の全校児童が農山村地区の青少年教育施設に 3 泊 4 日で宿泊し、スキーや登山、陶芸体験等を行っています。
出典：子ども農山漁村交流情報支援サイト
（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局）

2　表丹沢での新たな楽しみ・暮らしの提案

新東名高速道路の開通により、今後、さらに多くの来訪が期待されます。都心からのアクセスが良く、本格的な自然が味わえる立地を生かしながら、表丹沢に訪れた人が**自分に合った新たな楽しみの発見や魅力あるいなか暮らしに関心を持つ**きっかけとなるよう、気軽に表丹沢の魅力を体感できる機会を提供していきます。

既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	いなか暮らし体験と併せた移住や二地域居住、週末の居場所づくりに関する情報提供	秦野市、 市民・活動団体
2	さと地共生住宅制度※23 の活用による住環境の提供	秦野市、民間事業者

※23　さと地共生住宅制度：正式名称は「さと地共生住宅開発許可制度」。

取組み 蓑毛地区と小田急電鉄株式会社の連携による農業体験教室

蓑毛地区と小田急電鉄(株)の連携により毎年開催される小学生とその保護者を対象にした田植えや工作教室等を行う日帰り農業体験教室。毎回、抽選になるほど多くの応募がある。
出典：小田急電鉄株式会社公式ホームページ

取組み 上地区における「さと地共生住宅制度」

平成 25 年に上地区の既存集落のコミュニティ維持のために創設された開発許可制度。市街化調整区域でありながら、里地里山など魅力ある地域資源を生かした住宅の立地を受け入れている。

【参考事例】

- **“農のある暮らし”「飯能住まい」（埼玉県・飯能市）**

豊かな自然の中の広い敷地に住宅を建設する「優良田園住宅制度」に加え、飯能市独自の農にふれあうプログラム“農のある暮らし”を通じて、土に親しむ生活環境を提供する制度です。

出典：飯能市公式ホームページ

方針５　交流・発信による魅力の高め合い

表丹沢では、多くの団体等により様々な活動が行われていますが、個々での情報発信にとどまっているため、より効果的でターゲットに応じた情報発信や周辺市町村との連携による隔たりない魅力づくりが求められます。

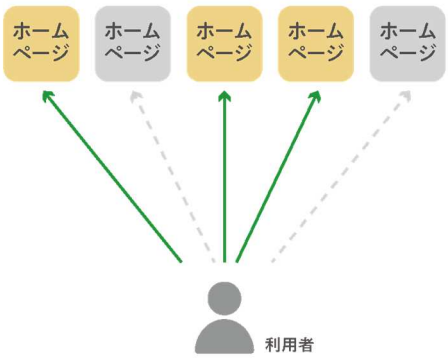
１　情報プラットフォーム※24 の充実

表丹沢にある多くの資源や活動を集約した情報のプラットフォームを構築することで、インバウンド向けの情報やそれぞれの嗜好に応じた情報を提供し、**来訪のきっかけ**を与えるとともに、既に訪れている人にも**新たな発見**を与えるきっかけとしていきます。

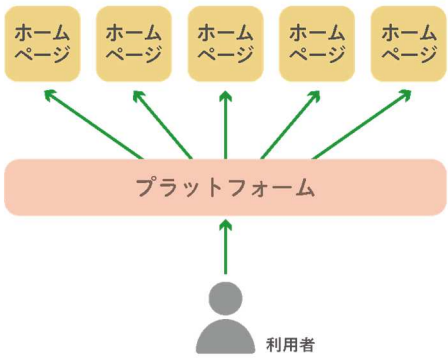
既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	総合ホームページの作成	秦野市
2	ＳＮＳ※25 等の活用	秦野市、秦野市観光協会

■情報プラットフォームのイメージ



【従来】



【プラットフォームの整備】

【参考事例】

●小笠原村観光協会ホームページ（東京都・小笠原村）

村紹介や観光名所だけでなく、食事や宿泊施設等の情報を総合的に掲載しています。

アクティビティや宿泊施設の予約状況についてもホームページで確認することができます。

出典：小笠原村観光協会公式ホームページ

※24　情報プラットフォーム：地域の個々の情報を相互に接続・連携させるための基盤
※25　SNS：Social Networking Service の略。インターネット上で社会的なネットワーク（つながり）を提供するサービス

2　周辺地域との連携による魅力の広がり

表丹沢周辺には、本市域に限らず周辺市町村に社寺や山岳スポット等の多くの資源が点在しています。このような資源を公共交通機関や自転車等を活用しながら回遊性を向上させ、広域的エリアからの来訪者の増加と広域観光地域としての魅力発信につなげていきます。

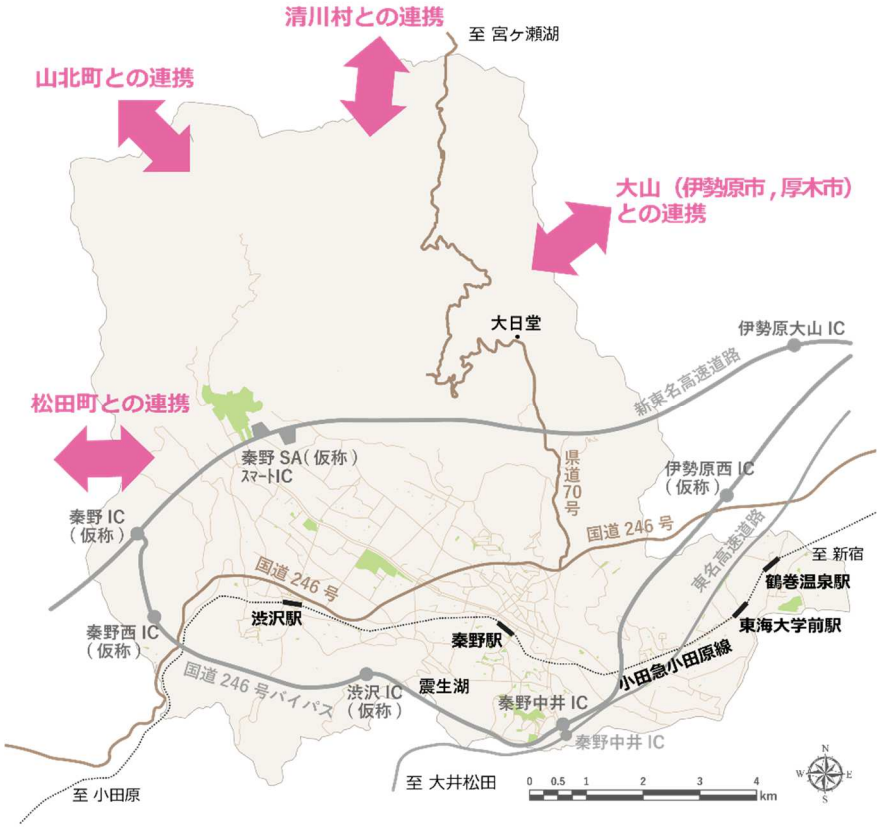
既存の取組み

No.	取組事例	主体
1	新たな観光の核づくり事業（大山地域）の推進	秦野市、周辺市町村
2	大山と鶴巻温泉間のバスルートの定着・拡充	秦野市、市民、民間事業者

新たな取組み

No.	取組事例	主体
1	周辺市町村との連携による情報発信	秦野市、周辺市町村

■周辺市町村との連携



2　エリア別方向性

先の「５つの基本方針」を踏まえ、それぞれのエリアが持つ資源を生かしながら、特性の異なる活動を創出していくため、表丹沢を３つのエリアに分け、各エリアの方向性を具体的な場所や主体とともに整理します。

また、エリア間の連携強化のため、各エリアに点在する拠点を中心に３つの軸でつなげます。

■３つのエリアと３つの軸

1　３つのエリア

表丹沢を３つのエリアに分け、各エリアの特性と方向性を整理します。

エリア１　表丹沢西：楽しみが始まる出会いのエリア

【特性】

表丹沢西は、丹沢山地に囲まれた自然を生かしたバーベキューや川遊び、本格的なクライミングが楽しめるとともに、１年を通して多くの登山者やハイカーでにぎわう表丹沢登山の玄関口でもある県立秦野戸川公園や、秦野名産品の落花生やいちご等の観光農園・体験農園、地元関係者によるいなか暮らし体験ツアーなど、豊かな自然を身近に感じることができるエリアです。

また、新東名高速道路秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ及び秦野ＩＣ（仮称）の開通が予定され、首都圏や中部・関西方面からの交通利便性が飛躍的に向上することから、本市の新たな玄関口としても期待されます。

【方向性】

表丹沢西は、「**楽しみが始まる出会いのエリア**」として、秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣや県立秦野戸川公園等の施設を中心に、表丹沢の新たな玄関口としての機能が期待されています。

そこで、資源や体験の発信、回遊性の向上につながる基盤を整えることで**表丹沢の玄関口としての機能**を充実していくとともに、様々な山岳・里山アクティビティを気軽に体験できるコンテンツの充実により**自分にあった楽しみ・暮らしの発見**を創出していきます。

また、隣接する松田町・山北町と連携し、**広域的な魅力向上**を図っていきます。

川遊び（県立秦野戸川公園）

観光農園

上地区いなか暮らし体験

バーベキュー（県立秦野戸川公園）

クライミング（はだの丹沢ｸﾗｲﾐﾝｸﾞﾊﾟｰｸ）

ハイキング（水無川遊歩道）

エリア２ 表丹沢中央：体験による自分発見のエリア

【特性】

表丹沢中央は、登山や沢登り、トレイルランニング、サイクリング、森林セラピー等の様々な山岳・里山アクティビティが盛んなエリアです。

また、キャンプ場、風呂棟などを有する表丹沢野外活動センターや、親子で木の温もりを感じ、創る楽しさが味わえる木工体験、石窯を利用したピザ焼き体験などができる里山ふれあいセンターなど、山岳・里山アクティビティの活動拠点となる市所有施設が点在しています。

さらに、表丹沢に張り巡らされた林道や相模湾を一望する菩提峠等があり、これらの活用を検討することで、各エリア・施設等の連携強化や回遊性の向上が期待されます。

【方向性】

表丹沢中央は、「**体験による自分発見のエリア**」として、実際の体験を通じ、一人ひとりが表丹沢との関係を築き、新たな楽しみを作り出していくことが期待されています。

そこで、様々な山岳・里山アクティビティの中心地として、体験を提供するための環境を整えることで、**人それぞれの表丹沢とのコトづくり**※26 につなげていきます。

また、これらの取組みを共有し、交流できる機会を増やしていくことにより、今ある活動だけにとどまらない、**新たな活動の展開を支える拠点形成**を図っていきます。

表丹沢野外活動センター

木工体験（里山ふれあいセンター）

菩提峠

登山（表尾根旧書策小屋付近）

沢登り（水無川水系 セドノ沢）

※26　コトづくり：製品を単に利用することで生まれる価値（機能）だけでなく、付加価値を与えることや価値を生み出す仕組み・プロセスをつくりあげること。

エリア３ 表丹沢東：地域活動が生む交流のエリア

【特性】

表丹沢東は、かつて大山詣への人々を案内する御師の里として栄えた蓑毛の御師集落や鎌倉幕府３代将軍の源実朝公御首塚など多くの歴史的な文化遺産が点在しています。

また、市街地から清川村方面へと縦断する県道７０号沿いにあるヤビツ峠は、塔ノ岳や三ノ塔、大山等の登山口であるとともに、近年ヒルクライムの聖地となっており、途中にある菜の花台園地は、市街地から相模湾まで一望できる景観スポットとしても有名です。

さらには、春嶽湧水・護摩屋敷の水等の湧水や山間の風景に溶け込むように広がる棚田等の豊かな自然があるエリアです。

【方向性】

表丹沢東は、「**地域活動が生む交流のエリア**」として、活動団体が中心となり、地域の特性によって異なる体験を通じ、市民や来訪者等の交流が期待されています。

そこで、主体ごとに特性の異なる活動を充実させるとともに、それらの活動を支える基盤を整えることで、**活発な地域活動と交流の促進**につなげていきます。

また、隣接する大山（伊勢原市、厚木市）や清川村と連携し、**広域的な魅力向上**を図っていきます。

ヤビツ峠

菜の花台園地

春嶽湧水

護摩屋敷の水

菜の花台からの市街地・相模湾

棚田（名古木）

２　３つの軸

特色の異なる３つのエリアの連携を強化するため、次の３つの軸を設定し、それぞれの軸の役割を整理します。

山岳・里山活動の連携軸

現状、表丹沢のルートは既設道路や登山道などの縦断路が基本となっており、「里山」と呼ばれるエリアの横のつながりが薄いことが課題となっています。

各エリアで重要な拠点となっている県立秦野戸川公園、表丹沢野外活動センター、ヤビツレストハウス（仮称）の３拠点をつなぎ、**山岳・里山活動の連携を生み出す軸**として位置付けます。林道活用の検討や拠点同士の連携を図ることで、里山エリアを横断した活動を可能とし、表丹沢一帯で山岳・里山アクティビティを楽しめる環境の創出につなげていきます。

流動性を強化する軸

令和３年度（２０２１年度）に予定される新東名高速道路の開通により、秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ及び秦野ＩＣ（仮称）を中心に広域からの新たな人・モノの流入が期待されています。

新東名高速道路周辺を**３つのエリア間の流動性を高める軸**として位置付けます。新東名高速道路の開通に合わせた周辺の交通環境の一体的な整備により、周辺施設への流動性の強化を図ります。

山岳回遊軸

表丹沢は、ヤビツ峠から塔ノ岳へ続く通称「表尾根縦走コース」をはじめ、数々の登山道や本格的なサイクリングルートがあり、多くの登山客やサイクリスト等が訪れます。

拠点施設を起終点とする登山道やサイクリングルートなどを、**山岳ルートの回遊性を高める軸**として位置付けます。拠点施設での情報発信や案内看板の設置等により、「訪れるたびに新たな発見がある表丹沢」をＰＲすることで、再訪を促し表丹沢一帯の回遊性を高めます。

エリア１：表丹沢西　楽しみが始まる出会いのエリア

方向性１　表丹沢の玄関口としての機能

(1)　魅力発見のきっかけとなるプラットフォームづくり

市外から多くの人が訪れるエリアとして、交流発信拠点を構築するとともに、市民や活動団体等と連携し、表丹沢の様々なアクティビティの紹介やこれらに精通したスタッフを配置することで、来訪者が地域のプレイヤーと直接交流・相談しながら、それぞれに合った過ごし方を見つけられる環境づくりを関係機関と検討していきます。

また、各施設と連携を図りながら、それぞれの体験の予約状況をリアルタイムで発信できるような仕組みを整え、季節や時間帯に応じた体験の提供など、総合的な情報発信をすることでエリア全体での魅力向上に努めていきます。

(2)　表丹沢全体へ人の流れをつくり出す仕組み

このエリアから、表丹沢全体へ回遊性を高めていくため、市では、秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ周辺の道路基盤整備を推進し、安全・安心で快適な道路網の形成に取り組みます。

また、民間事業者等と連携を図りながら、交流発信拠点での手荷物預かり所の設置検討や秦野ＳＡ（仮称）スマートＩＣ周辺における宿泊施設立地の可能性等の検討を行い、表丹沢全体へと人の流れをつくり出していきます。

方向性２　自分にあった楽しみ・暮らしの発見

(1)　気軽にできる体験メニューの提供

周辺環境との調和に配慮したふさわしい土地利用のもと、地元農家等と連携を図りながら、観光農園の拡充や効果的な情報発信を行い、利用しやすい環境を整えていきます。

また、県立秦野戸川公園など多くの人が来訪する拠点を起点にした初心者向けハイキングコースの整備・周知により、はじめて訪れた人でも、気軽に表丹沢の山岳・里山アクティビティを体験できる機会を提供することで、それぞれにあった楽しみを発見し、また訪れたくなるきっかけにつなげていきます。

(2)　地域と連携したいなか暮らしの魅力発信

上地区では、市民や活動団体等と連携し、市民農園等を活用した週末農業やいなか暮らし体験などを活用しながら、「さと地共生住宅制度」を周知していくことで、表丹沢の豊かな自然を生かしたスローライフが満喫できる住空間の創出につなげていきます。

方向性３　広域的な魅力向上

松田町・山北町との連携

松田町や山北町とは、観光等の情報発信を相互に行うとともに、観光資源や登山道、広域ハイキングルート等の活用による連携を図ることで、広域的な魅力向上につなげます。

エリア２：表丹沢中央　体験による自分発見のエリア

方向性１　人それぞれの表丹沢とのコトづくり

(1)　資源を生かした体験の充実

市営林道である桜沢林道や羽根林道、組合林道である菩提林道では、秦野市森林組合等と連携し、新たなサイクリングやハイキングイベントでの活用を検討するとともに、遊休地等では、民間事業者との連携を図りながら、マウンテンバイクやパラグライダー等の多様な活動フィールドを創出することで、山岳・里山アクティビティの更なる魅力向上につなげていきます。

また、活動団体等が実施するゆっくりと森を楽しむことができる森林セラピーロードや比較的容易に周遊できるヤビツ峠～菩提峠間のハイキングコース等を効果的に情報発信することにより、表丹沢来訪のきっかけにつなげることで、エリア全体の回遊性を高めていきます。

(2)　多様な関わり方の創出

表丹沢の麓には、複数の福祉施設等が立地しており、これらの施設や周辺農家等が協力しながら、農業体験を通じ、自信や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業において、新たな働き手の確保にもつなげていくことで、今まで以上に表丹沢に触れ合う機会を創出し、市民一人ひとりの地域への愛着や誇りを醸成していきます。

方向性２　新たな活動の展開を支える拠点形成

自然体験拠点である表丹沢野外活動センターでは、様々な山岳・里山アクティビティを支える活動拠点として、民間活力の導入による運営体制の見直しを見据えながら、魅力ある施設の有効利用を図っていきます。

また、地域活動拠点である里山ふれあいセンターでは、林業活性化につながる活動拠点として、森林整備ボランティアなど様々な体験ができる場所としての機能充実を図っていきます。

さらに、羽根スポーツ広場（仮称）用地では、森林資源の活用など表丹沢の魅力向上につながる有効利用策を検討していきます。

これらの各拠点の魅力向上を図ることで、それぞれで活動する人々の交流につなげ、今ある活動にとどまらず、常に新しい活動が生まれる環境づくりを醸成していきます。

エリア３：表丹沢東　地域活動が生む交流のエリア

方向性１　活発な地域活動と交流の促進

(1)　活動を支える基盤づくり

地域活動拠点である田原ふるさと公園では、地域が主体となった持続的な運営を実現していくため、地域住民とともに魅力向上に向けた施設再整備の在り方について検討を進めていきます。

また、県や警察と連携を図りながら、県道７０号の効果的な道路環境の整備について研究するとともに、各拠点を中心にサイクリングマナーや安全登山に向けた啓発活動をすることで、誰もが安全・安心で快適に活動できる環境づくりにつなげていきます。

(2)　地域の特性によって異なる体験

自然体験拠点であるヤビツレストハウス（仮称）では、活動団体と連携を図りながら、ニーズに応じた様々な体験の提供やアウトドアスポーツグッズのレンタル等を行うなど、山岳・里山アクティビティの活動拠点として機能充実を図っていきます。

また、菜の花台園地では、ヤビツレストハウス（仮称）との一体的な活用の検討を行うとともに、県と連携しながら、自動販売機等の設置やデジタルサイネージ等の活用による表丹沢や周辺市町村の資源や体験等の情報発信など休憩スポットしての魅力向上策を検討していきます。

さらに、ゆっくりと森を楽しむことができる森林セラピーロードのほか、源実朝公御首塚や大日堂、緑水庵等の歴史・文化遺産など地域固有の資源を活用した市民や活動団体による体験を提供するとともに、各拠点での効果的な情報発信を支援していきます。

方向性２　広域的な魅力向上

(1)　大山（伊勢原市、厚木市）との連携

伊勢原市、厚木市とは、観光等の情報発信を相互に行うとともに、登山道における共通の看板設置等を検討するなど、歴史的・地理的につながりが深い大山との連携を図り、回遊性を高めます。

(2)　清川村との連携

清川村とは、観光等の情報発信を相互に行い、県道７０号でつながる宮ケ瀬エリア等との回遊性を高めます。

第５章　構想の推進に向けて

１　推進体制

(1)　各主体間の連携

魅力づくりビジョンを共有し、実現に向けた具体的な事業を確実に推進していくためには、市民・活動団体、民間事業者、行政等がお互いの役割を理解し、各主体が連携・協働して一体的に取り組む推進体制の構築が必要です。

(2)　各主体の役割分担

表丹沢の魅力や価値を一層高めていくため、市民・活動団体、民間事業者、行政等の役割を明確にした上で、各主体の役割に応じた連携・協働の取組みが重要となります。

ア　行政等の役割

本市は、表丹沢魅力づくり構想の旗振り役として、各主体が連携し、情報共有できるプラットフォームを構築するとともに、担い手となる市民・活動団体の人材育成を進めていきます。

また、国や県、周辺市町村、観光協会等の関係機関との連携を図りながら、表丹沢の魅力向上に係る制度の見直しや事業推進のための補助金等を検討することで、市民・活動団体や民間事業者の活動をサポートしていきます。

なお、市所有施設については、民間活力を導入しながら、利用者のニーズに即した運営を実現していくため効率的で効果的な運営方法を検討していきます。

さらに、市では、魅力づくりビジョン実現に向けた具体的な事業を円滑に進めるため、庁内横断的に連携を図りながら、本構想の進捗管理や各種調整、情報発信等の取組みを推進します。

イ　市民・活動団体の役割

市民・活動団体は、民間事業者や行政等と連携しながら、表丹沢での活動に積極的･主体的に参加し､触れる機会を増やすことで地域にある魅力の再発見につなげ、地域への愛着や誇りを醸成していきます。

また、その体験した魅力を口コミやＳＮＳなどあらゆる方法で市内外に発信することで、表丹沢にある様々な分野の資源を磨きながら、次世代へとつなげていきます。

なお、活動の推進に当たっては、市民・活動団体のサポート役として近隣大学や表丹沢で活動する大学・専門学校等と連携を図ることで、専門的かつ持続的な実施体制の構築が期待されます。

ウ　民間事業者の役割

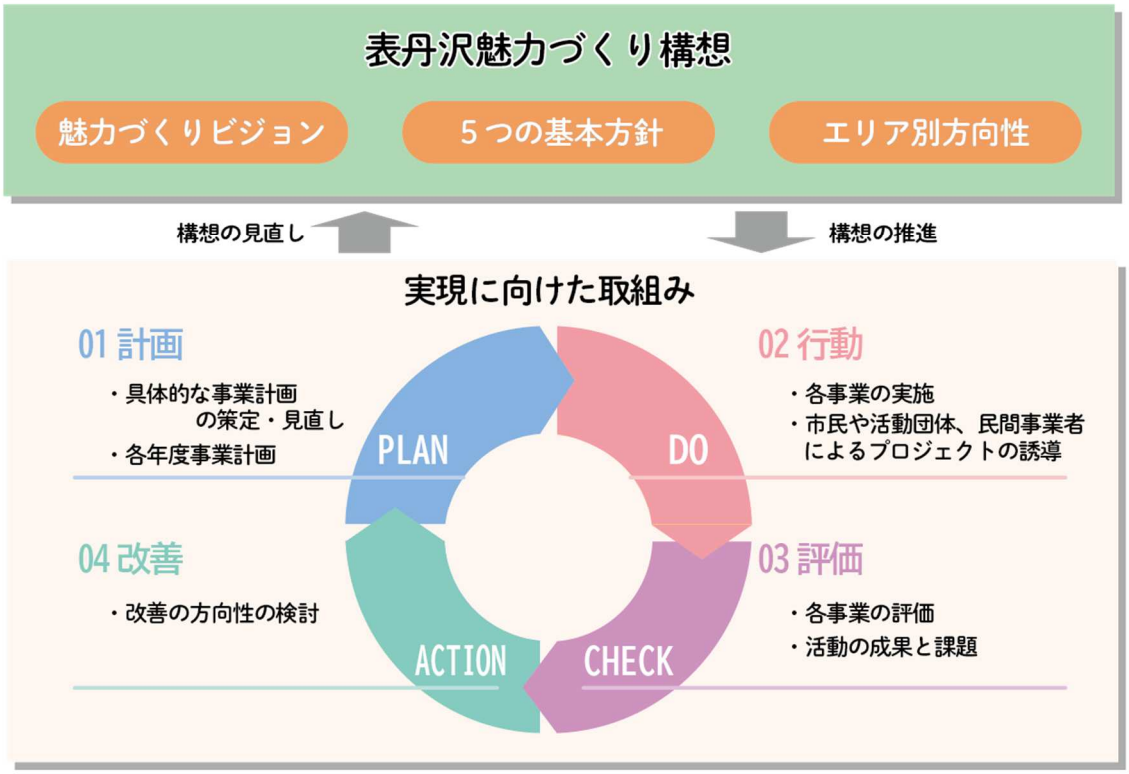
民間事業者は、市民・活動団体や行政と連携しながら、積極的に資源を磨き、つなげ、様々な体験を通して触れる機会を提供していきます。

また、施設等の整備に当たっては、若者や高齢者、障害者など幅広い地域雇用を創出していくとともに、自然や景観など、表丹沢が持つ資源を適切に保全していくため、デザイン等にも配慮することで、魅力的な空間を創出していきます。

2　推進プロセス

本構想策定後は、魅力づくりビジョンの実現に向け、具体的な事業計画の策定や見直しを行いながら、魅力づくり方針に沿って進めていきます。

また、年度ごとに各事業の振り返りを行うことで、 活動の成果と課題を明確にするとともに、達成できなかった取組みについては、その原因や問題点を分析し、その後の事業計画に反映していきます。

さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、今後、新しい生活様式への移行をはじめとした社会変化が進んでいくことが想定されます。本構想についても各事業の成果や進捗を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症等による様々な社会変化などに対して柔軟かつ的確に対応していくため、おおむね５年後に見直します。

■推進プロセス